

昭和四十八年十二月招集

第四回館山市議定会定例会會議錄第四号

館山市議會



# 目次

日時	.....	一
場所	.....	一
出席議員	.....	一
欠席議員	.....	一
出席説明員	.....	一
出席事務局職員	.....	一
議事日程	.....	一
開議	.....	二
認定第一号ノ認定第七号(質疑)	.....	二
動議	.....	三八
決算審査特別委員会の設置・委員の選任・付託	.....	三八
休会	.....	三九
延会	.....	三九
本日の会議に付した事件	.....	三九

一、昭和四十八年十二月十一日(火曜日)午前十時

一、館山市役所議場

一、出席議員 二十八名

一 番	吉田 勇治郎	二 番	林 豊
三 番	流山 源次郎	四 番	鈴木 稔
五 番	近藤 好雄	六 番	栗原 一雄
七 番	渡辺 昭夫	八 番	石井 武敏
九 番	辻田 実	一〇 番	渡辺 軍治郎
一 二 番	藤田 益治	一 三 番	五十嵐 昇
一 四 番	伊賀 多朗	一 五 番	和田 一郎
一 六 番	辻井 謹爾	一 八 番	安西 益男
一 九 番	島野 茂樹郎	二 〇 番	君塚 喜三
二 一 番	鈴木 市蔵	二 二 番	田村 源治郎
二 三 番	菊井 敏博	二 四 番	西村 真次
二 五 番	安沢 徳順	二 六 番	飯田 義男
二 七 番	望月 照正	二 八 番	田中 禄郎
二 九 番	秋山 六三郎	三 〇 番	遠山 ヨネ子

一、欠席議員 一名

一 一 番 山本 昇

一、出席説明員

第一号に同じ

一、出席事務局職員

第一号に同じ

一、議事日程(第四号)

昭和四十八年十二月十一日午前十時開議



認定第一号 昭和四十七年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について

認定第二号 昭和四十七年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第三号 昭和四十七年度館山市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第四号 昭和四十七年度館山市と畜場特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第五号 昭和四十七年度館山市休養施設特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第六号 昭和四十七年度館山市ユースホステル特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第七号 昭和四十七年度館山市学童災害共済事業特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第二号 昭和四十七年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第三号 昭和四十七年度館山市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第四号 昭和四十七年度館山市と畜場特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第五号 昭和四十七年度館山市休養施設特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第六号 昭和四十七年度館山市ユースホステル特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第七号 昭和四十七年度館山市学童災害共済事業特別会計歳入歳出決算の認定について

## 開

議 午前十時五分開議

○議長（吉田勇治郎君） 本日の出席議員数二十四名、これより第四回市議会定例会第四日の会議を開会いたします。

本日の議事はお手もとに配付の日程表により行ないます。

## 議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第一、認定第一号乃至第七号昭和四十七年度一般会計及び特別会計決算を一括して議頓といたします。認定第一号 昭和四十七年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について

## 質疑応答

○議長（吉田勇治郎君） 御質疑を願います。質疑の際は、ページ数をいっていただきます。一〇番（渡辺軍治郎君） 私は、市長が決算に関する説明の中で、教育、産業、観光の三本の柱のもとに積極的に行政を推進したと、こういうふうに述べていますが、まず、この三つの点についてお伺いしたいと思います。

九二ページ十一節需用費学習用の器具器材費の問題ですが、この中にランドセルの経費が含まれていると思うんですが、ランドセルの譲与が廃止になったということで辻田議員のほうから一般行政質問で質問がありましたけれども、教育長の回答ではランドセル譲与前と後の変化がどのようにあったかという質問に対して



答えておりますが、答弁の内容は一般的な教育の基本的な問題について述べております。

ランドセルを譲与するときには、教育の機会均等ということとランドセルの譲与がやられたと思うんです。このランドセルの譲与というところを取りやめたということは、教育の機会均等ということとは一体どうしたのか。

これは、ランドセルをやめるに当たって、学用品は運ばなくてもいいということでロッカーをつくって、ランドセルの譲与でなしに、ランドセル全体をやめるといふそういうことについては、保護者の間からは今のショルダーバッグでなしに、ランドセルを今までどおり前と同じようにやったほうがいいじゃないかというような意見もあります。

したがって、この問題は、教育の機会均等ということと始めたランドセルの譲与が、これをやめるに当たっては反省してないわけです。ランドセルをやめる口実を学用品を運ばなくていいように、私の考えではこじつけのように考えられるわけです。そういう点について明確な回答をお願いしたいと思います。

それから、産業についてですが、七〇、七一ページ農業振興費の中では相当の減額が、予算から見れば相当大きな減額があるわけです。

十九節の補助金、交付金の中で果樹経営集団の育成事業について、予算では四百五十万二千五百円計上していますが、二百二十五万二千五百円の減額になっていきます。

七一ページの十九節のイチゴ生産出荷改善事業については予算から見れば二十二万二千円の減額がある。

それから、農業近代化資金の利子補給についても、予算から見れば五十三万八千六百円の減になっております。

七二ページの同じ節の酪農振興事業資金についても七十三万八千六百円も減少しております。

七三ページの同じく十九節の共同施行事業補助金これも百九万の予算から見れば減少になっております。

市長は、産業の振興をうたっておりますけれども、これを見ますと、相当多くの予算から見れば実際の決算は減少になっているわけです。これは農業振興を推進してきたということをいっておりますが、決算の面では予算から見れば相当減額しております。こういう点から見れば、市長が本当に農業や酪農の振興に大きな力をはらってきたといえるかどうか。こういう点について質問したいと思ひます。

それから七五ページ、水産振興費ですが、漁港の改善については船形とか、富崎とか県単事業で相当大きな負担金を出していますが、こういうようなところには、要するに県単事業には大きな金を払っておりますけれども、沿岸漁業構造改善事業では百八十七万二千二百五十円の、予算面から見ればこれだけ減少しております。

それから、アワビの種苗放流にしても十九万五千円と非常に少ない額であります。これも予算面から見れば四万五千円減少しているわけですが、沿岸漁業を発展させるという点から特にエビの放流とかそういうことをやっていますが、網光的に見てもアワビとか、サザエとか水産業の発展をはかっていかなければならないような条件に館山はあると思うんですが、そういう方面に対する



施策が予算、決算を通じて非常に少ないということです。果してこれで産業の振興に積極的に行ってきたといえるかどうか。こういう点について質問したいと思います。

それから、観光費についてですが、七八ページ十一節二十三万五千五百九十七円の不用額が出ています。市長は、観光について相当努力してきたといっておりますが、決算面を見ますと、海水浴場の監視員とか、海岸清掃の人夫の、観光についての見るべきものはこの二つぐらいの予算、決算の状況だと思っております。

この観光ということが、あとのほうにキャラバンとか、いろいろ宣伝だとかありますが、それが観光では私はないと思っております。通告質問の中で、北条の海水浴場の問題取り上げましたけれども、海水浴場として本当にそれが観光と結びつく重要なことかどうかということは、市長も答弁の中でいっておりますが、実際に予算、決算の執行を見ますと、全く金を使っていない。こういうことがはっきりこの決算の中にもあらわれていると思っております。

海水浴場として一番大事なのは、海水浴場をどう本当に快適なものにするかということになれば、砂浜の造成と、大ぜいの人が入るとすぐ黄色くなるほど水が濁る。一番大事な海水の濁るようなことを、これは海底にヘドロや沈でん物がたまっているもので、それが海水浴客によってかき回されるとすぐ海が濁ってしまふ。こういうことで、北条の海水浴場はきたないということで、塩見とか、西岬方面に海水浴場をかえる人が出てきておる。この問題は放置できない問題だと思っております。

今、予算編成期にありますので、こういった問題を本当にやる気があるのか、ないのか、海浜の造成の問題と、砂浜の問題と、

海のよぐれを取り除く問題と、もう一つは、砂が飛散しないように今、あそこにグリーンベルトがつくられておりますが、あの間隔が広過ぎるために、この間のような風のときには、一番きれいな砂がみんな海岸通りに吹き寄せられて山になっております。こういうふうなことを防止しなければ、せっかく造浜してもこれは飛んでしまつて荒らされるといふことなので、これらの問題をどういうふうにしていこうとするのか。そういうことについて、この三つの問題についてお尋ねしたいと思います。

○教育長（安田豊作君） 第一のランドセルを給付していたのに、なぜやめたんだという御質問にお答えしたいと思います。

ランドセルを給付したときの意味は、確かに渡辺さんのおっしゃるとおり教育の機会均等という一つの大義名分があったと思えます。しかし、その当時、その底に流れている大きな問題としては父兄の負担の軽減ということがより大くの意義を持っていたと思えます。

約一万円近くするランドセルを父兄が支出するということについては、かなり負担を感じる父兄もあるわけです。それを給付することによって教育の機会の均等を得させようとする意味は、父兄の要するに家庭の経済格差が教育格差につながらないようにするのだ。これが教育の機会均等の意味だったと思います。

それを、今回その給付していたランドセルをなぜやめたんだ。こういう考え方は私どものほうに再三今まで答弁で申し上げておいたものを、内容的なものをここに申し上げますと、ランドセルの給与の割合は学用品の給与の約三割に当たっております。この三割の学用品給与のお金を第一番にできるならば直接子供が学



習に使う材料そのものに振り向けたいというのが第一の理由でございます。

第二の理由は、その学用品を学校に常置するという体制をとることによって、教育の内容的な改善をはかりたいという意味が一つあると思います。教科書だけに頼るとか、あるいはそういう形式的な考え方から、より子供自身がみずから学び、そうして自分のからだの中に植えていくところの、そういう内容の改善をはかりたいというのが第二のねらいでございます。

これらをつらぬいているものは、そういう考え方に変わった。流れているものは、親の、第一のランドセルを給与されると考えたときには、親の負担を軽減して教育の機会均等をはかるという考え方から、子供中心に、子供のために同じ金を導入するならば、どういう方法がいろいろあるかという考え方に私どもがかわったからであります。以上。

〇農産課長（石井 謀君） 七〇ページ果樹経営集団育成事業の補助金につきましてお答え申し上げます。

これは、おもにビワの振興計画でございますが、四十七年度から県の指定を受けてビワの振興計画をはかったわけでございます。

事業の内容としましては、非常にビワ園に通ずるわいのということで、何とか組合員の要請によりまして舗装化をお願いしたいということと県と話し合いの上で進めておったわけでございます。四十七年度から県の指定を受けて、指定を受けた場合には県が三〇%、市が二〇%、五〇%の助成があるわけでございます。そういうことで、総事業費におきまして九百万五千円を計上いた

してお願ひしたわけでございますが、その中で路線が幾つかございまして、三カ年計画の中で館山市が占める割合が非常に多いというふうなことで、何とか県のほうで若干繰り延べて事業を実施していただきたいという点が一つ。

それから、この中で、機械器具の購入費等がこの中に含まれておるわけでございますが、これは地元からの要望がございまして一年度に負担が相当多いから県のほうでそういう意向ならば一年間繰り延べて実施してもらいたいという意向もあったので、減額したわけでございます。

その次に、近代化資金の関係でございますが、近代化資金の当初予算に計上いたします積算については過去の実績さらに前年度の実績を検討いたしまして、利子補給の額を定めるわけでございます。

そうしますと、四十六年度の貸し付け額が三十四件で三千八百八十六万円ということであつたわけでございますが、四十七年度におきましての実績が二十四件の千八百八十万円というような申請がなされておるわけでございます。そういうような関係で、四十七年度の実績におきましては前年に比較して非常に額が少なかったというような関係から減額に相なったわけでございます。

次に、酪農資金におきまして、今、申し上げましたような実績におきましての積算で減額になったわけでございます。

七三ページの共同施行関係でございますが、当初予算の編成時におきまして各農家組合長を通じまして、その地域地域の振興計画をお出し願つておるわけでございますが、大体十月の末日までにその希望を取りまとめまして、その中で話し合いの中で大体予



算をお願いしておるわけでございますが、一、二の部落で、たとえば奥道の場合にはその敷地の拡張の問題等で話し合いがつかなかった場合もございまして、一、二の脱着等があったためにこの減額と相なつたわけでございます。

○水産課長（谷貝茂生君） 七五ページ、沿岸漁業構造改善事業、アワビの種苗放流事業の補助減額の理由でございますが、沿岸漁業構造改善事業は、国の構造改善要綱に基づきまして各県に予算の割り振りがなされるわけでございますが、本市におきまして県とも連絡を取りまして、今年の場合どのぐらいのものをというのとで打ち合わせをするわけでございますが、地元といたしましていろいろとこういった多額の補助で仕事が行われるという面からなるべく多く事業実施したいわけでございますが、一応希望として計画を県のほうに出すわけでございます。

ところが、予算が確定いたしますと、県への国からの配分が減額されると、県では一応予定しました各市町村の事業につきまして検討を加えまして、事業の内容によっては減らされるものも出てくるし、場合によればもう少しふやすという処置も取られるわけでございますが、構造改善事業につきましては、魚礁の設置、荷さばき所の事業とか、あるいは畜養施設とかいろいろの事業があるわけでございますが、四十七年度のこの事業につきましては荷さばき施設、畜養施設等もいろいろと実施いたしましたし、また投石等も実施したわけでございますが、荷さばき施設は事業の設計からいきまして県の指導を受けまして多少設計変更も出ておりまして、畜養施設もそのとおりでございまして、事業の内容によりまして設計変更、そういったものから減額されてきたという

ことがおもな理由でございました。

なお、次のアワビの種苗放流でございますが、これは県の水産試験所の千倉の分場の種苗センターから取り寄せてあるわけでございますが、種苗センターにおきましても年間どのぐらいふ化したいということをやっておりますが、ふ化して分けるまでの段階において成績によりましては当初見込んだよりも割り当てが減らされるわけでございます。

できれば、もっともっとたくさんやりたいわけでございますが、種苗の関係上、あるいは予定よりも減らさざるを得ないという面も出ております。さりとて、昨年の漁協の関係とか、まだふ化をやっておるところもございしますが、そういうところから買いますと、値段が倍以上になってしまふということでは希望はしているわけでございますが、種苗の入手の関係もありまして、やむを得ずこのように減額したわけでございます。

減額されたからといって、今度はそれをほかの何かもっとやりたいものにこの助成を振り向けるということも、この年度では困難がありますので、希望はしておりますけれども、そういった理由でやむを得ず減額されたわけでございます。

○商工観光課長（鈴木 力君） 観光費の御質問の三点につきましてお答え申し上げます。

まず、第一点でございますけれども、七八ページの不用額二十三万五千五百九十七円、この理由につきましては、海水浴場対策、なお観光事務の経常的な事務の経費でございますが、できる限り経費の節減をはかった。こういうような趣旨のもとに予算執行いたしました。消耗品費、印刷製本費あるいは光熱水費、修繕料等



におきまして若干の不用額を出したわけでございます。積極的にこれらは推進いたしまして、節減という意味でこの程度の不用額ということでございます。

次に、第二点の北条海岸の海岸整備でございますけれども、御質問のように確かに現在のところ、海岸がヘドロ状況、それからなお砂ということが非常に少なくなってきたことは事実でございます。

これにつきましては、先般も市長のほうから御答弁もございましたとおり、運輸省の事業といたしまして、これは県が実施するわけでございますけれども、海岸環境整備事業という事業が県のほうからお話しがあったわけでございますが、これをぜひひとつ実現していただきたいということで県のほうにお願いしてあるわけでございますが、いずれにいたしましても地元の関係の皆さま方とよく話し合いをしまして、話を煮詰めまして具体的にまた県のほうに要望したい。こう考えておりますが、この事業が実現するならば海岸の浄化あるいは砂浜の造成こういったものも合わせて実施されるわけでございますので、この事業の実施を期待しているわけでございます。

次に、砂防の問題でございますけれども、これにつきましても地元の方からいろいろお話しがございまして、市といたしましてはも植栽これは潮風に耐えられる、現在のところ、マサキとか、トベラとか、シャリンバイとかこういう樹木がございましてけれども来年度できればそういった植栽によりまして海岸道路への砂の飛ぶことも防ぐ。こういうようなことで現在のところ考えております。

〇一〇番（渡辺軍治郎君） ランドセルの問題で御答弁があったんですが、大体ねらいが父兄負担の軽減をはかるということで始められたのが、そういう父兄負担軽減から子供のためにどうするか、

どうしたらいいかということのほうに考えがかわったようですが、私たちは、ランドセル譲与の問題は教育の機会均等とはいいますが、何か感じとしては市長の人気取りの政策のような、そういう受け取り方をしていたわけです。ただそれを合理化するために教育の機会均等というようにことがこじつけられたというと、語弊があるかもしれませんが、そういうふうに受けとめていたのだ、これを廃止するについてはそれ相当の反省をしなければならぬんじゃないかというふうに考えてきたんですが、一年生です、一年生、二年生の子供の教育の問題となれば、問題になっている知育偏向の教育というようなものは、もっと上級生のような場合には考えられますが、一、二年の子供に対してむしろこれは勉強よりも体育というふうにかわってきていると思うんですが、そういう面では私は、子供の教育というか、詰め込み主義の学習よりも、子供の体位の向上をめざす教育というようなことが今ではやられていると思うんですが、だからといって学用品も何もロッカーに入れて持ち運びをしなくてもいいという理屈にはならないと思うんです。ですから、そこらが非常に矛盾しているように考えるわけです。

ある父兄の方は、教育は学校だけだ。家庭では遊びだけでいいんだというようなことをいっても、子供ですから幼稚園から小学校にあがるというようなときには勉強といえますか、あるいは教科書なんかに対する魅力も相当あると思うんです。それが学校に



行かなければ教科書が見られない。少し遅れた子供が学校だけではなかなかついていけないような、そういうこともあると思うんです。

ですから、家庭にいても教科書が見られるように、もし学校でロッカーに入れることを持ち運びのことが理由だとすれば、ロッカーにも教科書を入れるし、家庭でも教科書が見られるような、そういうことにしないと、小さい時分から遅れている子供は、学校の学習だけでついていくということはなかなか困難な問題だと思ふんです。これはかなりの人がそういうふうに見えているわけです。

ですから、何かランドセルの譲与をやめたということが教育の機会均等というところで始められていながら、それをやめるのにロッカーに教科書をそこに置いて運ばなくてもいいんだということだったら、何も譲与をやめるということで、ランドセルをやめるということはつながらないのじゃないか。統一してやれば安い金で比較的生活の困難な人が同じようなランドセルでということもありますけれども、譲与をやめるだけで、何もランドセルをやめるということはすぐに結びつかなくてもいいような感じがするんです。

それを、父兄負担の軽減から、学用品の軽減から子供のためにどうしたらいいかというふうに考え方にかわったんだ。こういうことは別の問題じゃないかというふうに考えるわけです。

教育者とすれば、いつの場合でも子供のためにどういうふうな教育したらいいかということが基本ですから、そういう観点は何もランドセルでなくても一般教育方針としては当然この子供のた

めに考えるのがあたりまえなんです。それが、ランドセルをやめるということと結びつけてやっているところに、何かこじつけのような、理屈をあてつけたような、あるいはやめるためにはある程度名分をつくらなくちゃいけないというような、そういうことで苦勞したような点が伺えるんですが、そういう点についてはまだ教育長の話では私としてはちょっと納得できないような面があります。

それから、ビワの道隆の舗装の問題で、これは繰り延べになったというようにことで、これは今後も続けてやられていくものと理解してよろしいかどうか。

それから、近代化資金の問題ですが、大体これは前年度の実績でやられているようにですけれども、一応市としては農業振興とかそういうようなことでは当然計画を持たなければならないと思ふんです。

これは、農業だけではなしに、水産業にしても、一応どういうふうにやっていくかということとは前の実績だけで考えるんではなしに、発展の計画性というものを年次計画にしてもはっきり持つ必要があると思ふんです。今年度はここからここまでやるというようなことでいいかないと、前の実績だけで行き当たりばったりのことをやっていたんでは、館山市の発展というそういう方向にはつなげていかないと思ふんです。そこらにはもう少し計画性をもって年次計画を組んで、農業や水産業の発展をどういうふうに行うにやっていたらいいかというようにすることで非常にそういうんでは、市長のいうように積極的に行ってきたとは思え取れない。

これは、水産業の面にしても築港や、そういうようなことで観



観光と結びつけて海の資源の開発は非常に重要なことです。これ  
もやはり、割り当てが少ないからというようにことでなしに、も  
っと積極的、こういふところにこういふ投石が必要なんだ。

たとえば、ワカメをやるには、水深一〇メートルですか、その  
へんのところがたくさんあると思うんです。近いところには、そ  
ういうところでワカメの増産をしようとするならば、それに基づ  
いた投石というものは計画的に組まれていかなくちやいけない。

アワビにしても、サザエにしても、そういう磯の少ないところ  
には磯をつくってやるということでは、計画性も何にもな  
いわけです。

だから、そういう計画性があれば、計画に基づいて種苗も入手  
といえますか、そういうようなことについても、もっと積極的に  
やって多く取る。なんか予算、決算見てもなりゆきにまかせると  
いうような面が非常に強く感じられるわけです。

だから、私は、こういう産業計画については、農業、水産業も  
相当の計画性をもって何年度までにはこうするんだ。それには今  
年度こういふ予算を組むんだということやっていかなければ発  
展の計画にならないと思うんです。

そういう点について、市長はどういうふうに考えているのか。  
これは説明の中では、三本柱の一つとして農業、水産業の発展と  
いうことを当然やってきたというんですが、実績を見ればやって  
きたというふうには考えられない。そういう状態でありますので  
この点は市長さんに、大事なことですから聞いておきたいと思  
います。

それから、観光の問題ですが、これは商工観光課長の説明で、

運輸省の事業計画にのせてやるということですが、海岸の観光の  
中に入るのか、海岸の造成あるいは公園費の中に入るのか。たと  
えば、沖の島は、市長の考えでは観光としてこれは重要なところ  
だから育成していくというようにことをいって、あそこは公園費  
の中に清掃費とかそういうものが組まれているわけです。北条海  
岸は予算を組む場合、公園費の中に入るのか。観光費の中でやる  
のか。そういう問題ちょーとわからないので、教えてもらいたい  
と思うんです。

運輸省の事業計画というのは、これは交通ということがおもな  
のか、何を重点にこの運輸省の計画がやられようとしているのか。  
ただそれに、この海岸の造成をのせていくということなのか。そ  
こらが非常にあいまいです。運輸省の事業計画にのせてほかのこ  
ともやってもらうということだけでは、非常に計画が不安定だと思  
うんです。

それを、はっきりこういうことができるんだということを、何  
年度から何年度までにこういうことをやっていくというようにこ  
とを明確にひとつ説明していただきたいと思います。

〇教育長（安田孝作君） 教育方法ですか、内容の転換は、ランド  
セルの廃止と直結しないじゃないか。こういう御指摘でございま  
す。

私も、そういう転換をしたことが一つ。それからもう一つ  
は、父兄負担の軽減等はやはりつらぬいていきたい。やはり今の  
行政の方向じゃないか。ですから、ランドセルの給与を廃止して  
も、その負担がそのまま父兄の側にかからなくて、しかも教育的  
なものにプラスになっていく方法、こういう一つの考え方の上に



立っておるわけでございます。

御指摘のように、本を家庭に持っていかなければならない子供もあると思います。それは私どもとしては運営の上で持っていないといけないんだという一つのワクにはめて指導しているわけじゃないません。

この間もお答えしましたように、子供は自分で選んで、その日に必要な教科書を持って帰るといふような子供がだんだんできてきております。こういうふうに変ってきております。

親たちも、学校に教科書を置くならば、家でも勉強に教科書が必要なんだから、何人かの父兄は新しい教科書をさらに買った父兄も何人かあったようです。それから二年生の教科書を借りて家に置いてある家庭もあるようです。

しかし、今になってみると、そうした必要はなくなったという父兄の声が非常に多くなってきております。したがって、当座はそういう子供もありました。漸次好ましい方向に今あるんだ。こういうことについて私どもいろいろつかんでおりますが、御指摘のようなこじつけじゃないかというような懸念もお持ちだかもしませんが、私どもとしては一つは父兄負担の軽減をつらぬきたいということと、一つは教育の内容的な改善をこの機会にはかっしていきたい。

この二つで現在のような処置を取り、運営の上でお話しのような点は漸次解消していきたい。こういうふうに持っています。

〇農産課長（石井 謀君） 果樹経営集団育成事業を今後も続けていくかどうかということでございますが、四十七年度から四十九年度まで実施することと進めております。

〇商工観光課長（鈴木 力君） 沖の島の関係の所管でございますが、これは都市公園といたしまして公園費でもって予算計上してございます。これは土木課のほうで所管をいたしております。

なお、北条海岸につきましては、自然公園といたしまして私も観光課のほうで予算的に観光費等で施設の整備等を行なっております。

次に、北条海岸の環境整備事業でございますけれども、これにつきましては港湾の整備いわゆる海岸の保全というのが平久里川から汐入川、それから沖の島にかかましては運輸省の所管でございます。なお、平久里川から川崎海岸、那古船形方面におきましては建設省の所管でございます。

こういう関係で、この環境整備事業が運輸省の所管になるわけでございます。しかしながら、実施主体というのは県が行なうわけでございます。

それから、事業内容でございますけれども、これにつきましては県のほうから先般事業内容が示されたわけでございますが、きわめて素案でございます。一つの試案として県が市に示したわけでございますが、内容的には、いわゆる侵食防止対策、これは従来から海岸におきまして行なわれてきたわけでございますが、国土保全の立場からの事業、海岸の利用度を高める上におきまして、一つの海洋レクリエーション地区を造成するというふうなことでございまして、内容的には突堤を三本つくる。汐入川に二本。これによりまして、三〇〇メートル沖合いに突堤を二本。それからなお、平久里川に遡るのほうに一本。それから海岸の砂浜を広げるといふことで沖合い五〇メートルに引き綱をする。こういうこ



とでございます。なお、公園として植栽等の事業を考えております。

実施時期につきましては、まだはっきりいたしませんで、四十九年度以降からということでございます。

いづれにいたしましても、これにつきましては、いろいろ地元の関係等もございますので、これから十二分話を煮詰めましてぜひとも実施していただくように県のほうに要望いたしたい。このように考えております。

〇一〇番（渡辺軍治郎君） 今の商工課長の説明でよくわかりました。

ただ問題は、湊川と汐入川に突堤を出すといいますが。そういうような計画があるようですが、この問題は、地元でもそういうふうにしたほうがいいんじゃないかというそういう考えもあるわけです。しかし、海というのは非常に魔物といいますが、潮流の関係があるわけです。

館山航空隊を埋め立てたために、あそこの川崎の下のほうの海岸が侵食されたというようなことが、潮流の変化が一番大きな原因になっているように聞いているんです。突堤を出したために潮流の変化がどうなるのか。それによって海岸自体がどういうふうにかわっていくのか。そういう点は非常に未知数の問題ですよ。

ただ、川の水を沖に出せば河口が埋まらないということは、これははっきりしているわけです。ただ、沖に出した場合に、堤防が潮流にどういう影響を与えるかというようなことは、しろうとはなかなかむずかしい問題です。

これは今、海岸に何本かの突堤ができていると思うんですが、

これは最初の計画では海岸と平行にやるというよりなことで、やはり専門家の中から潮流の変化で危険だということでああいうふうに変更になったと思うんですが、やった結果の追跡調査、やった結果、海岸線にどういう変化がきているのか。そこらの点を研究してやってもらいたいということが、これは湊川のほうでしたらあのへんの海水浴場は汐入川付近と比べれば条件が違うわけです。特に、汐入川の場合は突堤を出した場合に、結局潮流が流れない部分ができるわけです。かげになった部分、そういうのがどういう変化をするのか、私たちにもわかりませんし、それがわるい結果をまねいては困るので、十分ひとつ研究してやってもらいたいということです。

それから、五〇メートルぐらいの海底の清掃ですが、水がきたないんでは海水浴場になりませんから、この点ぜひひとつ力を入れてやっていただきたいと思います。

砂防の問題ですが、今やれる仕事としてグリーンベルトの少し間のあき過ぎたところは、これは市がやろうとすればできることです。それから、その点を来年度の予算でやれるかどうか。この点、ひとつ聞いておきたいと思います。

〇助役（島山 伝君） ただいまのおことばの突堤を出した場合、どういうふうに変化するのか。これはおっしゃるように未知数でございますので、なおここに砂盛りをした場合、たとえば突堤だけでその砂がとまるかどうか。平行に堤防に築いて砂をとめれば完全にとまりますけれども、それでは海水浴場としては用はなさないうということもございまして、いろいろこれは今後話を進める過程で十分検討を加えなければならぬと思います。



そこで、ただいま下のヘドロというようなお話しでございますけれども、これはいろいろ海岸線をそうしたことて形をかえるということにつきましては、いろいろ漁業関係の方々、産卵場等が非常に海岸線にそってあるそうでございます。そういうようなものも考え合わせて、またそのヘドロを今後調査してこれについてはいろいろやり方ありましょけれども、経費負担もたいへんじゃないかと考えるわけでございます。

このことにつきましては、運輸省のこの善後事業でできれば、国、県の予算で実施してもらえらるわけでございますので、私どもは十分それを活用してより完全なものをつくる方法で検討していただきたいというふうに考えておるわけでございますので、いましばし検討させていただきます。

○商工観光課長（鈴木 力君） 海岸の砂防につきましては、遊歩道の海岸寄りのほうに、一応考えといたしましては先ほど申し上げましたとおり、塩害に強い樹木、先ほど申し上げましたとおりマサキとかトベラ、シャリンバイとか、こういうような植栽をいたします。なお、しがらみがございますが、あれをやったらどうかというところで検討しております。

○一〇番（渡辺軍治郎君） グリーンベルトの間がかなりあき過ぎてゐるんです。あれをやるうとすれば狭ばめることができるんです。非常にあいてゐるんで風が吹けば海岸道路のほうに吹き寄せられてゐる。これは来年度の予算で運輸省あるいは建設省のそういう計画にのせなくても市でやれるわけですから、そういう点でやれるかどうかというのを聞いてゐるわけです。

○商工観光課長（鈴木 力君） その点につきましては、今後十分

検討いたしたいと、このように考えております。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 観光問題では大体の方向がかなりはっきりしました。

先ほど、市長さんに農業、水産業の発展について、なにか行き当たりばったりで、県のいわゆる補助事業だけをやられてゐるというような感じが予算、決算を通じて強いわけです。そういう予算の組み方をしなければ館山市としての産業の発展がなにか補助事業にのせてやるような、そういう傾向が非常に強いわけです。

市長さんは、三本柱の一つとしての産業の振興ということをいいますが、そういうものを計画的にどういうふうにやっていくかというふうなそういう観点、そういうものがないと思うんです。

これはどういふことを、どういふふうにするかということは一応計画があれば年次計画を組めるわけです。そういうことをこれからやっていこうとするのか、どうなのか。そういう点について市長さんの考え方を聞いておきたいと思ひます。

○市長（本間 謙君） 水産関係につきましてはまずやはり港湾の整備というのが重点的に考えなければならぬわけでございまして、漁協等の御意見によつて補助事業でこれはやっているわけでございますが、今は御案内のように、取る漁業から育てる漁業という方向でいっている。これはどこでもそうです。館山市においても、そういう意味においてノリの養殖をはじめとし、エビの放流も三年ぐらいやっています。アワビとか、そういうものもやっておるわけですが、私は、はっきりわかりませぬけれども、いずれもそういうものは種を買ってやっておるんですが、そういうものを育種センターですか、そういうものをつくるのが最も望ま



しいと思って前から考えておるんですが、これは専門家の意見を聞かなくちゃいけないんですが、魚の卵ですか、育てて放流するとか、エビとか、そういう放流するものをつくるのが私は大事じゃないかと思いますが、これはいろいろ漁業会の方々の御意見を聞いて、できればそういうものをやる方がいいじゃないかと思ひますが、そんなに港湾なんでものは一カ年じゃできませんし何カ年かかるかわかりませんが、その他は組合の整備とか運営とかいうものが大事だと思います。

農業関係については、やはり農業というものは土地、気候、風土にすべて作物は支配されることは御承知のとおりであるわけでございます。やはり、気候、風土に適したものを栽培する。これが基本的でなくちゃならぬと思いますが、この房州はあたたく草がはえて牛の飼育にいいということで昔から第二の北海道というようなことで非常に畜産が盛んですが、今までは農家が一匹、二匹ぐらいしか飼っていませんでしたが、今では多頭飼育を奨励し、草地の造成そういうこともやっておるし、それからイチゴ栽培あるいはレタスとかピワ、かんきつそういうものを奨励してやっておるんですが、来年度の一部を申し上げますと、今化学肥料が盛んで便利だからあれを使うために地所が非常に荒廃してゐるわけです。これは人手が足りないときやなんかでやむを得ないと思ひますが、地所をそのままそういう状態で置くことは農業の基本である土地が荒れていくということがいえると思ひますが、本年は各地区に一町歩ぐらいずつ化学肥料を使わない田んぼで昔のように稲をつくることをやっていく地区を指定してやろうというようなことで今考えておるわけですが、いろいろ小

いことですけれども、農家のためにはドジョウの養殖とか、ミンクの、これはまだこれからのことですが、それから堰にコイをはなつて、九月の市会で予算をお願いしたんですが、ため池が市内に五十もあるんですから、今度十五ぐらいですか、コイをはなして公害のないたん白資源ということは今から堰を有効に使つていこうということも小さいことですけれども、やっておるんですが、なかなかむずかしい話ですけれども、いろいろと考えて対策を練つておるわけですが、いい考えがございましたら、またぜひお知恵を拝借したいと存じますが、以上のような次第でございます。

〇一〇番（渡辺軍治郎君） 今、市長さんから答弁いただいたんですが、一応いろんなことを考えてやっていることはあるんですが、館山市にとって特にどういう施策が必要なのか。そういう点の研究と、それをやっていくには、たとえば水産業にすればどういう投石が必要なのか。どういう育苗を入れたらいいのか。

農業にしてみると、どういう農業を館山市の立地条件に合わせてやっていったらいいか。そういう研究と、それをやるための計画性をもって年次計画へのせてやっていかなければ実績はあがらないと思うので、そういう点は十分考えてやっていただきたいと思ひます。

特に今、問題になっているのは、農業生産といっても、最近ビニールハウスによって生産、経営というのがかなり大きくなつてゐると思ひます。ところが今、ビニールは手に入らない。それからビニールハウスに一番重要な重油を制限されて手に入らないということでは、せっかくこの農業の発展計画を立てても、そう



いう面から制約を受けるといふようなこともありますので、そういう点については、やはり私は市のほうから政府なり、関係機関なり、あるいはそういう業者とか、そういうふうなところにも働きかけて、そういうものが円滑に手に入るようなそういう援助といえますか、そういう施策というのが今特に必要ではないかといふふうに考えますので、その点はぜひ配慮してやってもらいたいと思います。

以上で、質問を終わります。

〇二〇番(君塚喜三君) 債務負担行為の問題に限って、三点ばかりについて質問いたします。

第一点でございますが、八二ページの八款土木費の三目道路新設改良費の十三節委託料についてであります。備考欄に昭和四十五年度道路舗装工事委託料二千五百七十三万八千四百四十七円とあります。これは四十五年三月の議決の限度額五千万円として債務負担行為による道路舗装工事委託料と思われるのであります。その支払い予定は四十六年度二千五百万、四十七年度二千五百万と明記されており、その四十七年度支払い分であるわけでありますけれども、ところで、次の欄にある四十六年度分については過日補正がなされまして、その理由とするところは、執行額が予定支出額を下回ったことであつたわけでございますが、ところが、四十五年度分については執行額が予定支出額を上回る違いこそあれ、全く同じ理由にあらうかと思うんですが、なぜ債務負担補正を必要としないのか。

しかも、四十五年度分については、四十六年度には決算書に見るように二千五百万が支払われております。四十七年度には二千

五百七十三万八千四百四十七円が支払われております。合計しますと、これは五千万円の限度を七十三万八千四百四十七円上回ることになるんだが、これでよいのか、お尋ねをいたします。

第二点といたしまして、第一点について調べておりましたところが、疑問点にぶつかりましたので、過年度分で恐縮であります。が、関連としてお尋ねするわけですが、四十五年度に道路用地購入費限度額七百二十一万七千円が議決をみております。

そして、その支払いは四十六年度にということになっておるのでございますが、四十六年度の予算の中には土木費のうち地買収事務委託料として七十八万九千六百六十四円が計上されているのみのようでございます。どうも私にはこの点について記憶はございませんが、これどうであつたか、ついでといつては語弊がありますが、教えていただきたい。

ということは、これも私は債務負担補正が必要ではなかつたかと思つたわけですので、この際、お尋ねするわけでございます。

第三点といたしまして、債務負担行為に関して技術的な問題でございますが、四十六年度までは当該年度以降の支出予定額が示されておつた。ところが、四十七年度からは明示がない。なぜ四十七年度からは明示をしなくなったのか。このことは、支出に融通性があつて執行には便利かもしれませんが、そのことが地財法の第四条の二、すなわち「地方公共団体における年度間の財政運営の考慮」の条文に抵触するようない予算編成の姿とならないではないか。あとの年度に大きなしわ寄せがいらないか。こういうことを心配するわけですが、こういふ点、どうお考えでございますでしょうか。



以上、三点についてお尋ねいたします。

○財政課長（長谷川広治君） 債務負担関係についてお答えを申し上げます。

四十五年度分につきましては現在資料を持ち合わせがございませんので、後刻取り寄せてお答えを申し上げます。

四十六年度の舗装関係の費用につきましては、昨日もちょっと御説明を申し上げましたが、当初一億七千四百七十万で限度額として債務負担をお願いをいたしました。が、実行額が一億六千六百四十万、そういう数字になりましたために、年度間の支払い額を四十七年度に調整をいたしまして計上をいたしましたものでございます。

三つ目の年割り額ということは、ちょっと私よく理解できませんが、年割り額のほうは正規の予算書でなくて事項別明細書の最後の欄にそれぞれ記載をいたしてございますので、四十七年度も四十八年度もございすが、ごらんをいただきます。

○二〇番（君塚喜三君） 八二ページの十三節委託料の備考欄に四和四十五年度道路舗装工事委託料載っておりますね。四十五年度道路舗装工事委託料として二千五百七十三万八千四百四十七円とございます。

ところで、これは先ほど御説明申し上げましたように、四十五年度分の限度額五千万ということで債務負担行為によってなされたものの四十七年度の支払い済みであると思いますが、間違いないでしょうか。四十六年度には決算書を見ていただくとわかるように二千五百万払われておる。そうすると、二千五百万四十六年度に払われて、四十七年度に二千五百七十三万八千四百四十七円

支払うということになれば、限度額として議決せられた五千万を七十三万八千四百四十七円上回ることになるんです。ですからこれでいいのか。また、これには債務負担補正がなぜ必要なのか。

その次に次にある四十六年度については、今おっしゃっていただいた債務負担補正がなされましたね。だけれども、同じような理由であり、しかも大きなこのような限度を上回ったというようにないのじゃないか。このように私思うわけです。だから、お尋ねするわけです。

○財政課長（長谷川広治君） ただいまの御質問の資料を持ち合わせがございませんので、取り寄せて御回答を申し上げます。

○議長（吉田勇治郎君） 後刻に譲ります。

○二〇番（君塚喜三君） 第二問の四十五年度分なんですが、道路用地購入の限度額として七百二十一万七千円が議決を見ておるんですが、これは四十六年度に支払うんだということになっておるんです。予算書には。ところが、四十六年度のほうを見ると用地買収費の委託料として七十八万九千六百六十六円が計上されておるけれども、購入費のほうが全然ないので、この点について私、そのとき説明があったかどうか知りませんが、記憶にございませんので、関連としてお尋ねするわけです。これも、債務負担補正というものが必要ではなかったかと、実は私は思うわけでお尋ねするわけで、よろしくお願ひいたします。

第三点につきましては、了解をいたしました。

○土木課長（飯田治男君） 四十五年度の債務負担行為の道路用地



購入費というのが十七節の公有財産購入費五百八十二万二千四百十三円、これがその決算額でございます。

○議長（吉田勇治郎君） 二〇番さん、資料的に、後刻に譲っていただいて。

○二〇番（君塚喜三君） 四十五年度の予算書がここにあります、債務負担行為として道路舗装工事委託費というのと、それから道路用地購入費という二つがあるんです。

それで、道路舗装工事委託費というのは限度額五千万というところで議決されております。ところが、道路用地購入費というのは四十六年度に支払うものとして七百二十一万七千円が組まれておるんです。私は、このことをいっておるんです。よくお調べいただきたいと思ひます。

○議長（吉田勇治郎君） 後刻に譲っていただきたいと思ひます。

○三番（流山源次郎君） 七八ページ海岸清掃人夫賃金百三十六万九千四百というのがございますが、館山市の海岸を見渡したところ、北条海岸を中心として人夫がときどき入っておるのを見受けますが、船形海岸などはほとんどよごれっぱなしの状態のようでございますが、なんか市からの委託料で地元の人何人かやっているとありますが、その予算の配分というのはどういった線で払われておるか、お聞かせ願ひたいと思ひます。

○商工観光課長（鈴木 力君） 海岸の清掃でございますが、これは主として海岸清掃人夫賃金でございますが、各海岸とも共通して均等にきれいにすることが大事でございますけれども、一応從來から北条海岸中心といひますか、重点的に考えまして、その他館山海岸、那古、船形海岸あるいは西岬海岸やっておりますが、

地元の皆さま方の御協力によりまして今までやってまいっておりますが、別に予算の配分ということではなく、できる限りたえずきれいにしていきたいと思ひます。

○三番（流山源次郎君） 結局、私なんか見ると、館山の正面玄関、人間でいへば表玄関だけをきれいにするというような施策のように見受けられますが、この予算額を見ました場合に、そういったすみずみまで人夫賃としては少ないように見えるんですが、館山市全体の海岸線を考えた場合、もう少しふやしていただいて海岸の清掃は北条海岸ばかりでなく全体に手が届くようにしていただきたいと思ひます。

それから先ほど、渡辺議員の水産に関する問題で関連質問でございまして、館山市といたしまして、今までは市のほうではノリの養殖の問題とか、クルマエビの放流とかそういうものは一応市として研究課題として県が補助金を出して、市がそれに付随して出すというような線で、ノリあたりは積極的に市が取り組んだのでございますが、今までの例を見てみますと、県がやるから市がやるというふうなことで一応研究自体についてはそういった業者の補助をしたというのでございますが、現在のあらわれておる結果といひますと、ノリは市で研究用としてやった試験段階においては非常に大きな成果をあげたのでございますが、これを漁民にノリをつくるということではまかした場合に、二年間続けて非常に館山で不作で、そのノリ養殖に参加した人は大きな赤字をかかえてしまつて、現在館山にあるノリ漁業は地元の業者でなくして、富浦、岩井の業者がそれをやっております。地元の漁民が自分の地元であつてもそういう失敗をした。結局、ノリの結果が昨年度は岩



井、富浦において非常にノリが取れて、同じ種を使って、同じ網を使って館山では何にも取れなかったという現実が出てきたんですが、今年になると、話を聞くと、岩井、富浦が全然ノリがだめで館山湾は非常にノリの成果がいいということで、海に対して研究しても研究しきれない問題があるわけでありまして、そういった点では市としてもなかなか年次計画とかそういういたものは立てにくいと思います。

それから、いま一つは、クルマエビでございますが、市で放流した時点ではわれわれをはじめあいうものを放流してもどういう成果があるのだということでは水産課を相当せめてたんですが、二年間放流した結果は、現在になりますと非常に館山湾にクルマエビがものすごく繁殖してしまつて、あぐりなんかイワシを取るために網をやったところが、ものすごくクルマエビが入つて、それを一キロなり、二キロなりみんな若い衆がおかずに家に持つて帰るといふような状態になつてしまつたということは、これは市が「まかぬ種はえぬ」とおり、当初予算等でクルマエビの放流の保護したということが館山湾に近來にないクルマエビが取れたという成果があつておりますが、こういった問題は、ただ一がいに生産性、年次計画というものは海の問題で非常にむずかしい問題があるし、私なんかとしてもそういういい成果があつておるといふ事態を考えた場合に、市ではときどき県が補助しないからということでクルマエビの補助を打ち切つてみたり、そういったことをすること自体は、われわれ生産者としてはいい成果があがつてきたということになった場合、一応県が切つても市自体としても、市独自のもので研究費とか、そういうものを補助して

いたきたいということをお願いいたしまして、私の質問にかえさしていただきます。

〇九番（辻田 実君） 最初に、三九ページ十九節の企業誘致奨励金二百万余でございますけれども、当初予算から見ますと、倍近くのものになつておるわけなんです、この実績はどのようなものであつたのか、まず第一点、お伺いしたいと思います。

二番目は、四三ページ十五目諸費の八報償費弁護士謝礼、これは温水プールの事故に伴うところの弁護士謝礼だと思ひますけれども、その後、あの非常に悲惨な事故、不幸な事故があつてその後の経過、いろいろと話、風聞は聞くわけでございますけれども、経過は、現況はどのような状況になつておるのか、お伺いをいたしたいと思います。

五五ページ二目十三節の委託料でございますけれども、健康相談医師委託料、この問題については予算編成時点でもつて質問いたしたわけでございますけれども、当初予算に対して不用額がかなり出ておるわけでございます。

これは、医師を招いて福祉センターで健康診断云々ということでございますけれども、いろいろな老人医療の問題、その他の問題等もあったかも知れませんが、こういう結果が出てきておるといふことについて、この健康医療相談そのものが名目だけで内容が伴つてないんじゃないかという気がするわけです。四万七千円でもつてこのようなことを医師に頼むことはたいへんなことかも知れませんが、それにしても、制度が全然なければ別ですけれども、九千円で済ましてしまふということについては、制度そのものについてどう考へるのか。



市長さん自身、センターつくるときのいろいろの話の中にあそこきてゆっくり休めるとか、年寄り健康診断してもらえとか、そういう一つの大きな目玉であつたんですけど、内容がこういうことだと、制度そのものに問題があると思うんです。そのことは、決算をするにあたって、どのようにお考えになったのか。お伺いをいたしたいわけでございます。

次に、七一ページでございます。四月十一節需用費のところでございます。それから農業振興費三十九節と四目の十一節需用費になるわけでございますけれども、飼料費が若干あるんですけど、節約された形で当初予算より少なくなっておりますが、異常な飼料費の値上り等があつたわけでございまして、畜産関係、こういう関係では三割から四割ぐらいの増というふうなことが当然だったんですけども、少なくなっております。

また、医療材料費もかなり少なくなっております、けっこうなことですけれども、これは育成牧場の件だと思ひますけれども、この状況はその後どうなつておるのか。特に、医療費の減については、城山のクジャク園の医療費は逆にかなり前年度よりふえているにもかかわらず、こちらのほうは減つておるといふことでございますけれども、ここらへんの状況をお伺いしたい。

それから、近代化資金の利子補給の問題については先ほど渡辺議員が質問しましたので、特別委員会等において煮詰めてもらえばと思ひますので省略いたします。

植木生産団地育成事業、これも当初から見ますと事業が減っております。十万ぐらい。これはどういふわけで、少ないなりに減を生じたのか。その点について合わせてお伺いをいたしたいと思

います。

細かい問題になりますので、実際問題としては畜産、農業の事業に対して若干の見込みまたは事業に対してかなり十分を取り組みがなされなかつたような感じがするやに見受けられますので、そういう細点に立つて、この二点の数字をあげまして御説明を願いたいというところでございます。

七八ページ二目商工振興費の中の十九節負担金でございます。館山駅舎促進協議会補助金二十万というところでございますけれども、ときたま景気のいい新聞記事等が見えるわけでございますけれども、具体的な運動そういうものがなされておらないため、商工会議所の役員が若干集まつて随分程度ということでございますけれども、実際にあの周辺の商店街、そういうような人等に聞いて見ますと、かなりうらはらのものが感じられます。

たとえば、駅を移転されちゃ困るんだとか、新築するにも負担金がどうか、そういう問題等いろんな話が出て、この方針なりそういうものができてない。実際に、促進協議会等で云々ということも話を聞くんですが、内容は二十万の補助金でやっておりますが、これは随分費用なのか、それともいろんな会をつくつてやるといふことでございますけれども、その実態はどうなのか。名前は非常に名士が集まつておるようでございますが、実際その中で具体的な活動はどうなのか。そうした集まつた人たちの飲食代なのかどうか。この内容についてかなり市が出て、えらい人ばかりでもって私が注文つけるわけにいきませんけれども、実態がどうなのか。

その点において、駅舎の問題非常に市民の関心事であるし、そ



ういう点をお伺いしたい。

特に私は、三日、四日前に鴨川市役所を訪問する機会がありまして、伺ったのでありますが、鴨川市があとに市役所ができて駅への道路の確保も一部土地買収が未完成のままになっておりましてけれども、もうほとんど目安がついて、来年度には駅から新しい市役所の通りについては太い都市道路ができて、あそこに市街地構成ができておるといふことで、むこうの議会事務局長さんに聞いて見ると、あそこの土地の単価なんかも市役所ができるまでは一万円ぐらいだったのが二十万、三十万になってきて市街地が完全に移るといふことで、鴨川の市が一変といふことで都市構造ができておる。

先般、君塚議員が質問しましたけれども、全く駅前の商店街に對するそういうものに對しては無策であるといふふうな感じを受けざるを得ない。

特に、この館山駅舎の新築といふことについては、これをのがすと館山の将来の都市計画といふんですか、都市の発展といふものは全く固定化しちゃうといふ觀念がしますので、相当慎重を期して、鴨川があそこに移ったことについて議会事務局に行くと、鴨川もやったなど、館山のほうはそういう点について都市計画、そういう問題について非常に取り組みが弱いような感じがあるんですけれども、この館山の駅舎をめぐってはわれわれ大いに期待をしておる。

この経過は、二十万の補助金の決算云々といふことでなく概況、市長がこの補助金を組むわけですから、二十万の額は多い、少ないは別として、駅舎の改築といふことは、館山の行き詰まったと

ころの商工業、都市形態、交通、産業の一つのかなめになるわけでございますから、そういう面については若干の心がまえ、方針をもって予算化されていると思うわけでございますけれども、この支出した実績の経過におきますところの状況を細かく説明していただきたいといふふうに存する次第でございます。

それから、八七ページ消防費の中の十八節備品購入費でございましてけれども、これにつきましては消防の分団の消防の購入といふことであるわけでございますけれども、わりあい不用額もかなり出ておるようでございますけれども、この点については機械そのものに対して非常に安く買えたのかどうか。地元寄付金との関係がからみ合っておりますので、自然そうした寄付金等の関係の中においてそういう値引きをしなければならぬような状況ができてきているような気もするわけでございますけれどもこの点についてはどういふ状況であつたのか。

安くなることはけっこうでございますけれども、そういうような話も一、二聞いておりますので、特に地元負担金等のかね合ひでこうしたものが自然理想といふんですか、分団ではこの程度のこといふものを買いたいんだけれども、しかしながら区費で集めたり、消防寄付でする中でもって、どうしても消防にはこれだけのものが必要なだけども、地元負担金の関係でだんだん落ちていくという傾向もあるやに伺えますけれども、そうした面において出てくる不用額というよりな形が三十万前後といふことになると、単に安くなったからいいというよりな問題じゃなくなってくるというふうに考えられます。

消防の問題については、のちほど総括的に一、二質問したいと



思いますから、この答弁によって再質問したいと思しますので、この点についてお伺いをいたしたいと思ひます。

八九ページでございますけれども、十三節の委託料の小さな市民運動委託料十万円でございますけれども、この点については各種団体、いろいろな市民ぐるみの運動ということでやっていただきたいということであれしておったんですが、この市民運動の成果、実績というものはどういう状況であつたのか。この点についてお伺いしたい。

学校等を通じて非常に特定の人の中でほとんど行なわれておるような感じもしないわけじゃないわけです。広報も若干そういう記事は何回か見受けられましたけれども、その内容と成果についてどういふ進捗状況であるのか。お伺いしたいわけでございます。

以上の点について。

○議長（吉田勇治郎君） 午前の会議はこれにて休憩し、午後一時開会いたします。

午前十一時四十五分 休憩  
午後 一時 五分 再開

○議長（吉田勇治郎君） 午後の出席議員数二十五名、休憩前に引き続き会議を開きます。

この際、申し上げます。事項別明細書の訂正方について申し出がございましたので、説明により訂正を願ひます。

○収入役（高木哲三君） 決算書の書きかえのとき、付記に記載する金額の仕分けを誤まり作成されましたので、訂正方をお願いいたします。

八二ページ十三節の委託料の最初の数字を二千四百七十七万二

千円、次の関連経費を二百六十八万九千九百十六円と訂正方をお願いいたします。

○議長（吉田勇治郎君） 以上のような申し出がございましたので御訂正願ひます。

保留中の君塚議員君に対する質問の保留部分の説明を求めます。○財政課長（長谷川広治君） 後刻お答えを申し上げますというところで保留をいたして置きました委託料の関係につきましてお答えを申し上げます。

たいへん御迷惑を申し上げましたが、ただいま決算書を御訂正をいただきましたが、四十七年度予算におきまして五千万の限度額に對しまして、四十六年度に二千五百万支払つてございます。四十七年度に二千四百七十七万二千円を予算計上をいたしまして同額を支出いたしました。

なお、事務的な委託金につきましては、四十七年度予算におきまして二百六十八万九千九百十六円を計上いたしましたので、これも支払い額は同額でございます。

したがしまして、支出におきます年割額の変更は二千五百万の限度内でございますので、変更いたしませんでした。

○二〇番（君塚喜三君） その点は了解いたしますが、先ほどの御答弁のときに第三問として、四十六年度までは当該年度以降の支出予定額について年割がはっきり示してあるのに対して、なぜそれ以降のものについては示さないのかという質問をいたしましたところに対して、財政課長のほうから明細書のほうに書いてあるのだというふうなことでございましたが、私、予算書を見る限りについてはそうしたものはございませんが、どこにありますしょう



か。

○財政課長（長谷川広治君） 四十七年度予算につきましては、一九二年度の過年度議決額という欄にそれぞれ記載をいたしてございます。

○二〇番（君塚喜三君） 四十七年度の本年提出分にあるかと思うんですが、二億一千二百五十四万の分でございます。これは昭和四十八年度から昭和五十二年度までに支払うものとするというところで年割りが全然ございせんが、過年度分についてはございせん。ということは、四十六年三月議決のもの等についてはそういうふうにやられておりますが、四十七年度、四十八年度といったものについてはこういったものがないわけです。

なぜ、私がこういうことを申し上げるかという点、四十七年度においては道路橋梁工事委託費について債務負担行為として限度額工事費二億一千二百五十四万これがあるわけなんです。及び取得に要する経費というものがあるわけです。

これに対して、四十八年度から五十二年度まで五年間で支払うものとするというふうになっておるわけなんです。五年間と書いてはありせんが、五十二年度までに支払うものとする。五年間で払うようにうたてあるわけなんです。

ところで、その支払い期で四十八年度は一千八百三十万九千九百九十一円のみが計上されておるわけなんです。これは総額に対して非常に下回わる。これでいけば、先にいったくさん払わなければいけないのじゃないか。こういった記載の方法は、なるほど融通性があってやりやすいかもしれないけれども、そのかわりさっきちょっと申しましたように、このことは地財法の第四条に

「地方公共団体における年度間の財政運営の考慮」という点に抵触するような結果を生むんじゃないのか。すなわち「予算編成にあたって当該年度のみならず翌年度以降について財政の状況をも考慮して、その健全な運営をそこなうようなことがないようになければならぬ」ところはつきりうたてあるわけなんです。

最初の年度において少し払っておけば、最後にいったくさん払わなければならぬ。財政を圧迫する結果になる。ですから、こういう記載の方法は好ましい姿勢ではないんじゃないかと私は御質問申し上げたわけなんです。いかがでございましょうか。

○財政課長（長谷川広治君） 債務負担を行なう場合に二種の方法と申しますか、二つの方法を取っております。

一つは、今申しましたとおり、何力年から何力年度の年度間において財政の余裕を見て、あるいは財政計画を修正して支払うものと、それからもう一つは、確定数値に近いようなものにつきましては年割額でそれぞれ指定をしてございます。

道路関係につきましては、年度の最終時点にならないと確定数字が出ませんので、大体前者のほうを取りまして、何力年から何力年の間に支払うというようなことでやった年もございます。

それから、同じ土木費につきましても、ある程度年割額を明記したものとございますが、いずれにしても年度間の支出予定は目安として持っておりますので、各法には抵触しないというような考え方でございます。

○二〇番（君塚喜三君） 第二番目に御質問申し上げた道路用地購入費限度額七百二十一万七千円というものに対する四十六年度支払うんだということがはつきりうたてあるんですが、四十六年



度に見当たらないので、どういう関係なのか。

これらについても債務負担補正が必要じゃないかということでお尋ねしたわけです。これは本来ならば、四十六年度の決算のときに御質問申し上げるべき性質のもですが、関連してあるのでお尋ね申し上げておるわけです。

○土木課長（飯田治男君） 先ほど御説明しましたが、説明不足の点もあったと思いますが、四十七年九月の定例会で五百八十二万三千円の追加補正をお願いしたわけです。そのとき、説明いたしましたんですが、昭和四十五年度に債務負担行為いたしました道路用地を購入したものを四十六年度におきまして土地開発基金のほうで処理いたしましたので、今回追加補正をいたしまして、開発基金のほうに返済しようとするものでございますというふうに御説明申し上げます。そういうことでございます。

○二〇番（君塚喜三君） 了解。

○議長（吉田勇治郎君） 次、九番議員君に対する答弁を求めます。

○企画課長（伊藤幸太郎君） お答え申し上げます。

企業誘致条例に基づきますところの奨励金でございますけれど、この決算にあらわれておりますのが二社ございまして、南房巴拉ダイスと房州開発株式会社この二社でございます。南房巴拉ダイスのほうが百二十五万六千円でございます。房州開発KKのほうが七十九万一千円でございます。合計いたしまして二百四十六千余という数字に相なっておりますでございます。

この企業誘致条例は、御承知のとおりすでに廃止されておりますので、これを最後にいたしまして、今までに全部の奨励金の支出が合計いたしますと、九百七十四万八千円というような数字に

相なっております。

○庶務課長（小倉澄男君） 裁判の關係につきまして御説明申し上げます。

弁護士の謝礼でございますが、これは月二万円ということで十カ月分二十四万支出いたしてございます。

なお、その後の裁判の経過でございますが、四十七年六月二十七日第一回の口頭弁論を実施いたしました以来、九月、十月、十二月、四十八年三月、六月、八月、九月、十月、總計でたゞいままで九回の口頭弁論が終了いたしました。そして第一回の弁論から第七回までの弁論までは、当初原告側からの申し立てに対するそれぞれの三被告からの書面による申し立て等をそれぞれ開陳し合った次第でございまして、その間に一回温水プール現場にまいりまして、実際に両者がそこで裁判官をまじえまして現場検証的な実証をいたしたことが一回ございます。

最後の八回目、九回目、九月十日、十月二十九日でございまして、それぞれの原告側、被告側からそれぞれ申し立てがありまして証人の申し立てが、調査がいろいろなされておりました。九月十日には原告側から出された証人の白坂さん、それから市側から出された鈴木事務長の証人調べがございました。

それから、十月二十九日には、役所から出しました加瀬先生、江口先生の証人調べさらに原告側から出されました上野先生の証人調べがなされました。

本日、第十回目でございますが、口頭弁論が開催されております。本日は、市の川上課長が原告側からの証人調べ、証人に立っております状況でございます。



以上、まだ実際に口頭弁論、それぞれの申し立てを実施中のこととでございます、以上が大体の概要でございます。

○福祉事務所長（齊藤武男君） 五五ページの老人センターの健康相談につきましてお答え申し上げます。

結果的には、三万八千円の不用額でございますけれども、この健康相談につきましては、市の保健婦によりまして血圧測定、健康相談等随時実施しておりますが、この考え方でございすけれども、健康相談はもちろんでございますが、そのほかに生活相談あるいは就職相談というようなものも充実してまいりたいというふうな考え方でございすますが、できれば将来機能回復訓練等も実施できるようなりハビリでございすか、そういうような形の文字どおり老人福祉センターとしていきたいという考えを持っております。

○農産課長（石井 謀君） 農業費の関係の牧場の飼料関係でございますが、当初計画といたしまして飼料二百七十万円をお願いしております。

決算内容にいたしまして、やや同じで二百六十九万五千余円になっておりますが、市の牧場の飼料関係におきましては年間を飼料設定いたしまして、単実で大麦をおもに使っております。

購入にあたりましては、業者の見積り合わせによりまして一番安いところから購入しますが、一年間を契約してございます。四月から一年間契約してございますので価格の開きがなかったというところでございます。なお、四十八年の一月頃から飼料の値上げがあったわけでございますが、これはおもに値上げの関係は配合

飼料でございまして、単実につきましては値上げが非常になかったと記憶しております。

二番目の植木の生産団地の関係でございますが、これは昭和四十五年から市の単独事業で三年間に植木の奨励のために助成を行なっておりますが、四十七年度におきまして当初予算から比較いたしますと七万円の減額でございますが、当初の考え方は二万五千本の植木を埼玉から購入したものに對して三〇%の助成をしようという計画で進んでおたわけでございます。

決算時におきましていろいろ産地に交渉いたしました結果、希望する苗が非常に需要が多いために数が得られなかったということがまず七万円の減額になるわけでございます。現時点におきまして大体産地づくりがややできておまして、約十万五千本程度の植木があるわけでございますが、種類にしまして十一種類八万四千五百本程度が現在もう販売できるような体制になっております。

○商工観光課長（鈴木 力君） 館山駅舎建設期成促進協議会の実態と経過について御説明申し上げます。

駅舎建築期成促進協議会設立準備会ということで去る三月に商工会議所それから観光協会、商店街連合会この三社の代表によって結成されたわけでございます。

結成までの間に、この各代表者がすでに建設いたしました木更津市あるいは建設途上にございました君津市等の実態の調査というところで視察も行なっております。また、千葉鉄道管理局あるいは県の担当の企画部企画課等にもまいりましていろいろと話し合いがなされております。



それで、本年の三月二十二日に駅舎建設期成促進協議会設立準備会というところで設立されたわけでございますが、その後協議会が五月七日、六月十一日、七月五日にわたりまして開催されて具體的な意見交換がなされております。

なおその間、さらに千葉鉄道管理局のほうに代表者が出張いたしまして、国鉄側の考え方をただすというようなことでまいっております。

それから、毎月定例的に商工会議所あるいは観光協会、正副会頭、正副会長の定例会が行なわれておりまして、そのつどこれらが話題となりまして話し合いが進められておる現状でございます。現在、正式な協議会結成ということにつきまして事務局これは商工会議所が事務局をやっておりますが、事務局におきまして正式の協議会結成のための事務的な準備を進めております。こういう現状でございます。期成促進協議会が結成される運びとなるということも聞いております。

○交通課主幹（岩田 実君） 八七ページ備品購入費と地元寄付金との関係につきましてお答えいたします。

四十七年度に購入いたしました団関係の備品といたしまして一番大きなものは盛夏略衣四百二十八着でございます。金額にいたしまして百二十八万一千四百でございます。これは消防団員の貸与年でございますので地元寄付金はいたいております。

その他のものでおもしろいものとしては刺子外と二十八着、ホース五十五本、ヘルメット十五、ソフト吸管、その他細かいものがあるわけでございます。現在、こういったような消防団の備品を購入いたしましたので地元寄付をいたしておりますのは、五千

円以上のものを購入いたしました場合に五分の一だけ地元から御寄付をいただく。このような方針でやっておりますわけでございます。

なお、消防車を購入した場合にいろいろ機装等の関係で制約されたんではないかというふうなお話してございましたが、消防車は二目の施設費のほうでやっておりますわけでございますが、おっしゃるとおり地区が非常に経済的に豊かなところだと、やはり相応りっぱな機装も完備されたものを買いたいというのが人情でございますが、ただ、消防車というのは、やはり火災現場で火急の場合に使用するものでございますので、あまりに複雑なものを装備いたしたとしても、実際今までの経験からいいますと、それを活用するというような機会はなかなか得ないわけでございまして、その問題ともう一つ、やはり消防団でございまして、やはり均衡を保つ。そんなにとびぬけて機装のいいもの、また地区の財力によって貧弱な消防車だということがあっては相ならぬわけでございまして、ある程度の均衡を持った機装をしたほうがいいというのが消防団幹部の方針でございますので、なるべくあまりかけ離れた装備でないような消防車を装備しようという方針でやっておりますために、あるいは地元からこういうものを買ってつけてほしいといわれた場合、それはもう少し待ってほしいというふうなこともあるわけであります。

一例を申し上げますと、消防団の車両に無線機を装備してくれというふうな御要望もあるわけでございますが、無線機をつけますと、それだけでなく火急時の無線が混乱いたしましたして、重要な通信がなかなかできないという場合も起こり得るわけでございまして、現在は無線を聞くだけの傍受機だけ備えていただいております。



わけでございます。

これは、ほんの一例でございますが、そんな関係でやはり場合によってはある程度のもを購入を見合わせていただく。こういうふうな場合もあり得るわけでございます。

○学校教育課長（小宮義夫君） 八九ページ十三節の委託料小さな市民運動委託のことでございますけれども、たしか四十六年度よりお願いしてございます。

これは、小さな市民運動推進協議会が構成されておりまして、これに委託しまして、小さな市民運動協議会と申しますと、学校長、教頭代表、各学校生徒主任代表が集まりまして組織してある協議会でございますが、こういう協議会に委託をしてあるわけでございます。これは小学校、中学校の児童、生徒に対して、小さな親切運動を盛り上げようとするわけでございます。

これは最も大きな骨子は、調和の取れた人間形成の一環としての運動という一つの試みであるわけでございます。きょうも実は四中で生徒指導研究協議会が各学校から教職員が参集しまして行なわれているわけでございますが、直接学校は、特別活動の領域の中でそれぞれふりをしまして、子供の組織づくりをしてこの一つの親切運動という、こればかりではないんですが、取り組んでいる実情です。

学校に行きましてわかりますように、壁新聞、各学校の掲示板に壁新聞が張られていたり、学校でくふうしてこの親切運動のPRをしている状態でございます。

さらに間接的には、この推進協議会が行事を持っておりますのは、ときどき全市的にこの親切運動の情報交換をしあうという意

味で新聞づくり、それから子供たちの組織の中で幹部の子供たちの養成をしようということで幹部講習会、さらに生徒指導を直接担当する、もちろん全教師持つわけでございますが、学校の中の主任等、これを集めまして、教師の指導者講習会こういうことを試みておるわけでございます。この十万はその委託料、その範囲内で活動を現在やっておる状態でございます。

○九番（辻田 実君） まず第一点の企業誘致条例に基づくところの奨励金でございますけれども、当初予算のときには、これが一つの経過処置というふうなことでもって組まれたわけでございます。

これが最後というんですか、企業誘致条例廃止になったわけでございますけれども、そういう廃止という中で最後の資格というんですか、決算するという形で組まれたものがかなり大幅に上ったんですけれども、そこらへんの経過がどういうことだったのか。私どもの受け方というんですか、だいぶ違いがあるんですけれども、企業誘致条例が廃止されるにあたって、予算的には申請のあったものが効力を持ってこれだけ払いますということと当初予算に組んだ。したがって、私はそう大きく出ないのではないかと、いろいろな感じだったんですが、かなりそれが出ているというのは、何かそこに一番最後でぼかぼかといったような、そもそもあの時点でもって、企業誘致条例を廃止するにあたって出すということ自身がおかしいという論議で当時したわけですね。

それがまた、当初予算に組んだ額をかなり上回って出るというか、その経過が理解できない。わからないものですから。企業が出てくると、条例を廃止するにあたって経過処置として、条例



がなくなっちゃうわけです。四十七年度この時点では経過処置として組んだ予算をはるかに上回るといふ形の提案のしかた、その決算の方法、処理といふことはちょっと好ましくないような感じがするわけです。この点を少しくわしくお伺いをいたしたいと思うわけでございます。

それから、館山駅舎の準備会の結成でございますけれども、ただいまの御説明でございしますと、三月二十二日に設立準備会ができたといふことでございしますから、この年度といひますと三月末が年度、予算執行年度は若干延びるようでございしますけれども、非常に間一髪とすべり込みといふ感なきにしもあらずといふことで、この点については何かそういう形式的な面があるといふふうに思います。

なお、この点についてくわしくしたいのは、これを商工振興費という項目の中でもって館山駅舎というものが考えられておるといふことは、これは都市計画という面にはなかったことについては若干残念だったんですが、しかしそういう形でできることについては当時予算を承認したわけです。からいいわけでございしますが、四十八年度の予算については、この項目からいって商工費の振興費の十九箇の当初予算に組まれなかったわけなんです。これはどうして間きわにできてこういふ形の一年ぼつきりで商工費から抜かなければならなかったのか。私、勉強不足で調べ方が足りなくて申しわけなかつたんですが、三月にできたわけですからその後活動を続けておるんですから、その後補助金は打ち切ったのか。その点についてほかにあれば別ですけれども、私はこの際第一点として、商工費の二目の振興費の中になぜ継続できなかった

たのか。継続できなかった経過がこの二十万の予算支出の中にあるんじゃないかというふうに考えられるわけでございます。したがいまして、その点についてお伺いしたいわけです。

特に、先ほど総括的に質問申し上げました。また通告質問で原議員のほうからもありましたように重要な問題であるわけです。単に商工の振興にとどまらない面があるわけですけれども、準備会の委員構成これはどういう形でもってなされたのかということです。これが第一点。

第二点は、三月の二十二日に結成されたわけでございますから、それまでの間一年がかりでようやく年度末にできたといふことで、すけれども、それまでの処理、これはどこが受け入れ団体になつたのかといふことです。

準備会結成を新聞等で見ますと、会長が本間 譲になっておりますけれども、これは市長さんといふことだと思ひますけれども、そういう立場のかね合いがあったのかどうなのか。それで、単に商工会といふことでの事業としての、商工会事業そのものでもけっこうですが、それなりの方向性を出してもらいたい。

要は、その商工会を中心としたところの町の改築をめぐつての来年度予算等については、ひとつ全市民的な産業、経済あらゆる面にわたるわけでございしますし、特に商工業関係があるといひても、あそこに通うのは勤労者が大部分通勤、その他がありますから、こういう人たちの意見も聞かないと、実際の客これがある程度主体になつてもいいんじゃないかというふうに考えられるわけです。商工業者も使うけれども、一部であるけれども、これは認識不足かもしれませぬけれども、乗降客は勤労者、したがってそ



ういう人たちが、勤労者の代表とか実際汽車に乗ったり、降りたりする便宜、希望等もあると思います。さらに学生もあると思います。

単に、商工業だけで駅の問題をどうかということ、まして、その会長に館山市長が会長に就任するということは市民を代表してということになるから、もっと大きな形で出ていかなければならないのじゃないか。市長就任の経過と、商工業のものについて、そこらへんについてどうか。そこらへんをお伺いしたいと思います。

次に、小さな親切運動のあれですけれども、教育総務科の中に加わって、今の説明でございしますと、学校の教頭先生とか、校外指導の先生ということとで先生の中で受けとめられているということとでございすけれども、それは学校教育課程として持たれておるのか。それとも、こういう一般の社会教育費じゃないから、社会教育じゃないわけでございすけれども、もう少し市民運動というような形の中で規定づけられなかったのか。

今、聞いてみますと、純然たる教育内容というんですか、そのものであるけれども、実際教育内容として、教育課程として、そのところはあれですけれども、教育課程と内容ということとは違ひは専門家じゃございませぬけれども、学校教育の中で行なわれておる一つの道徳教育なり、そういうものに結びつくのか。それとも、学校のクラブ活動という形の中で教育内容の一つとして扱われるものか。これはどうして一般市民的な運動になり得なかったのか。また、社会教育との関連性についてはどうなのか。

一般に市民運動、小さな市民運動という名前でございますから

市民運動というタイトルもありますし、予算編成時点ではそういうものがあつたのじゃないかと考えておつたわけです。執行の段階になってみますと、純然たる教育内容というような感じを受けるわけですが、教育内容として扱って指導されたのか。この点について、その内容の面についてお伺いしたい。以上でございます。

企画課長（伊藤幸太郎君）

企業誘致の關係でお答え申し上げます。

企業誘致条例を廃止いたしました際に、附則条文いたしましたして、この条例の廃止の日までの間に申請がなされ、なおかつ指定された事業に対しましては引き続き奨励金を交付いたします。従前の例にならうて交付いたしますという附則を付しまして条例が廃止されたわけでございます。

そういう關係でございしますので、ここに盛られておりますところの南房バライスと房州開発株式会社につきましては、条例附則に基づきまして一年分だけを交付するということとでこの決定はなされたわけでございます。

当初予算におきましては、南房バライス分の百二十五万なにかしかを予定したのでございすけれども、房州開発KKにつきましては昨年の十二月の四十七年度の補正で七十九万なにかしかを補正いたしました上で、決算として示されておりますように二百何万かを支出したというような経過でございす。

〇商工観光課長（鈴木 力君）

駅舎推進協議会のことでござい

すが、昭和四十八年度分につきましては、商店街近代化整備補助金、こういう名目でもって一応十万円をお願いしてございす。

それからなお、この会の結成にあたりましては、先ほど申し上げ



げましたとおり、民間ベースでもって促進をお願いするというところでございまして、商工会議所、観光協会あるいは商店街連合会さんのほうでそれぞれ御検討いただきまして結成されたわけでございしますが、結成までの間、いろいろと意見もございまして、慎重を期するということであることで年度末に結成されたというのが現状でございます。

なお、準備会の委員構成でございますけれども、商工会議所の会頭さん、副会頭さんを含めまして五名、観光協会の会長さん、副会長さんで五名、商店街連合会の連合会長さん、副会長さん等で五名、全部で十五名の委員構成でございます。会則によれば会長は商工会議所の会頭をもって充てるということで、会議所の会頭さんが準備会の会長さんでございます。

それからなお、これらの組織、構成の中で国鉄の利用者、利用者ということから考えて、勤労者等も委員にすべきじゃないだろうか。こういう御意見でございますが、正式に促進協議会が設立された段階におきまして、またそれらを含めて委員構成にするかどうかということが検討されると思うわけでございます。

○学校教育課長（小宮義夫君）　ただいま、小さな市民運動のこととでございますけれども、辻田議員さん御指摘のとおり、現在のところ学校の教育内容の中で処理されているというのが現状でございます。これは生徒指導の一環としまして、学校教育の領域に對します特別活動の中で現在進められているわけでございます。

ただ、子供たちの指導者講習会、幹部指導者講習会等につきましては、これはJRC運動とも一緒になってやるわけでございまして、こういうところである程度校外に向けられた運動であると

もいえるわけでございますが、その区分けということになりますと、ややむずかしくなりましたはつきり申し上げることができないわけでございます。

さらに、幹部講習を通して、社会教育で考えられます子供会づくりのほうへの移行も当然考えられ、また出てくるのが予想されるわけでございます。しかし現在のところ、市民運動あるいは学校対外に出た運動としてはやっておりません。

○九番（辻田 実君）　わかりました。国鉄のあれは市長さん会長さんと思いましたが、勘違いであつたようでございますので、その点については今後広い規模で、それがこういうものが非常に一生懸命にやっております。また、そういう意気込み、熱意というものが往々にして館山市の場合には片寄っているという形で取られがちになってしまつてます。

せっかく、商工観光関係の補助金等を見てもほとんどそういう形でそれがみんな名前がかわるだけで内容、使途ほとんど同じのものでぐるぐるして、私は非常に関係者はたいへんだと思うわけです。ほとんどそういう形で予算が幾つもの、幾つもの出ていって、おるといふことで、そういう熱意なり、行為そのものが非常に市民の中から最近はどうちかというところ、つかれぎみのような点もあつてしよきれなくつてあつてあつていふのじゃないか。

むしろ、国鉄駅の問題とか、そういう関係のもの等ももっと広く市民的に解放していつて人材を求めたほうが私は館山市発展のためにいいじゃないか。むしろ、そのことが障害となつていふとはいへませんけれども、一つの限界を乗り越えてあつてあつていふような感じが見受けられるので、そこらへんについて十分



ひとつやっていたきたいというふうに思います。

あと、細かい問題等については特別委員会等設けられるようでございますので、以上で打ち切ります。

○六番（栗原一雄君） 七六ページ七款商工費について御質問いたします。

すでに、商工関係あるいは観光面についていろいろ議員から質問、その他がございましたので、一点についてお尋ね申し上げます。

館山市の財源割合から見ますと、自主財源と依存財源の構成比でございますが、自主財源にあつては昭和四十五年度においては五一・六％、昭和四十六年度は四八・四％、昭和四十七年度は四八・一％と年々減少いたしております。もちろん、依存財源は反比例し、数字的な割合は伸びるわけでございますけれども、自主財源確保という考え方から申し述べますと、館山市は大きな基幹産業がございませんので、中小規模商工業者は、市長の先般申されました自主財源の大きな財源であろうと私は考えるわけでございます。

昭和四十七年度当初の施政方針の中では産業、教育、観光を三本の柱として豊かな文化都市をつくるんだと、このようにたいへん力強く申されておるのでございますけれども、教育費二六・〇％、社会福祉関係でございますが一七・一％、商工費にあつては一・七％、この四十七年度の決算については六十万二千六百五十四円の不用額となっておりますけれども、七六ページ二目の商工振興費については二十五万五千二十円の不用額でございます。これ三本の柱といわれるかどうか。

なお、先般の通告質問の中で、商工会議所と月に何回か打ち合わせしておりますと、このように御答弁をいただいたわけでございますが、末端会員まではそういったお話は過去聞いたことはございません。

なおまた、本年四十八年度においても一・七％という構成比であります。今後どのようなお考えかどうか。一点についてお尋ね申し上げます。

○商工観光課長（鈴木 力君） ただいま、いろいろと御指摘をいただきましたが、これらにつきましては、商工振興の必要性というものを再確認いたしまして、今後十分検討してまいりたい。このように考えます。

○六番（栗原一雄君） 本年の国会において、八月末でございました。ようか、中小小売り特別振興法というのが成立いたしております。なお、九月十四日、大規模小売り店法というものが、この商業二法が成立いたしておりますけれども、そういった意味から考えましても、私も館山市は南房総におきます商業都市でございますので、国でさえもそのような法律によって中小規模商店の育成というものを考えておりますので、そのへんを十分御研究いただきまして、この際、南房総におきます確かに館山は商業都市である。自他ともに認めていただくような町づくりを積極的に行政指導していただきたい。要望して質問を終わりたいと思います。

○一三番（五十嵐 昇君） 七八ページ商工費のうち観光費でございます。観光費を見ますと、千三百五十万一千円という巨額の予算が投ぜられ、それが決算に出されておるところでございますが、その内容につきまして、ともすると費用の内訳等を勘案い



たしてみますと、ともすると、館山の観光が一季型観光にのみ使われているのじゃなからうか。こんな考えがいたすものでございます。そういう観点につきまして、以下三、四点お伺いしたいのでございます。

まず最初に、賞金の項でございますが、海水浴場監視員賞金百七十三万六千八百円、海水浴場休憩所の管理人賞金が二十八万六千円、海岸清掃人夫賞金百三十六万九千九百円という賞金が計上されておりまして、その監視員の賞金とか、あるいは海水浴場休憩所管理人の内容とか、あるいは海岸清掃人夫の賞金の支出等につきまして、たとえば海岸清掃人夫の賞金は月別にどの程度支払われておるか、内容等につきまして御説明をいただきたいと存じます。

なお、二点といたしまして、七九ページ委託料の花弁植栽事業委託料として三百万という巨額の経費が計上されておりますが、たぶんこれは駅前のロータリーの花であるとか、あるいは海岸におけるところのフェニックスのヤシ並木のことではなからうかと存じますが、この内訳について御説明をいただきたい。

なお、国体の際、花いっぱい運動が展開されました、館山の観光につきましていいイメージを与えたものと信じておりますが、これをただ線香花火的の国体期間というだけでなくして、館山の花いっぱい運動というものを継続して行なっていただきたいという観点におきまして、どういう御意見を持っておられるか。御説明をいただきたいと思ひます。

なお、三点といたしまして、工事請負費でございますけれども五十二万三千六百四十円という金額が計上されておりますが、そ

の中に監視塔建設、取りこわし工事料として九万六千円、監視塔新設工事費として十万六千円、こわして、建ててというふうな感じがいたしますけれども、これはどこの監視塔を、なぜ取りこわさなければならなかったか。なお、新設工事十万六千円が計上されておりますが、どこに、どういう監視塔を建設なさったのか。御説明いただきたいと思ひます。

なお、四点といたしまして、十九節の負担金補助及び交付金の件でございますけれども、観光協会補助金といたしまして六十五万、また観光まつり補助金として八十万、観光宣伝補助金として三十万、民謡宣伝補助金として二十五万という巨額の金額が支出されておりまして、観光まつりにおきましての内容とか、あるいは観光宣伝の内容におきまして、ともすると、夏季だけの観光宣伝にのみ使われているというふうな感じがいたすのでございます。

民謡等につきましても、館山音頭をもっとみんなの口からすぐ出ると、また館山を宣伝するに最も適した歌いやすい民謡というふうなものはないであらうか。今までの発表されております館山音頭等におきましても少しむずかし過ぎやしないか。もう少し市民の口からすぐ出ていくような、館山の本当に宣伝になるような、そのような民謡等を作成したらどうか。こんなふうな考えを持つものでございます。

そこで、観光宣伝、民謡宣伝等におきまして、館山を四季型観光、夏のみの観光でなくして四季型観光にぜひとも施行していかなければ館山のいわゆる収入源、館山の商工等におきまして伸びていく余地がないんじゃないか。特に週休二日制というふうな問



題が展開されておりますので、当然そういう健全なレジャーを提供するのは館山であるという観念から、もう少し館山の観光につきまして一元的な宣伝をしていただきたい。

たとえば、那古船形の観音さまであるとか、あるいは今回新設されましたところの安房博物館であるとか、すぐ隣の水族館の内容充実であるとか、あるいは西岬海岸の風光明媚なああいう景観であるとか、あるいは平砂浦等の南房バラダイスの宣伝とかいろいろあるうかと存じますけれども、そういった面におきまして冬期、春から秋の宣伝をもう少し活発にポスター等によりまして天下一に館山の観光を大いに広めるという意味の施策をこの際ぜひしていただきたい。こんなふうに考えるものでございます。

以上、四点につきまして、簡単に御説明をいただきたいと存じます。

○商工観光課長（鈴木 力君） お答え申し上げますが、海水浴場の監視員賃金につきましては、例年監視員といたしまして大体館山出身の大学生でございますが、学生のアルバイトを採用いたしました、夏季の間監視員としてやっているわけでございます。昨年度におきましては二十五名を採用いたしまして、各海水浴場に配しまして水難防止にあたらせていただいております。

それから次に、休憩所の管理人でございますけれども、これにつきましては海水浴場の休憩所に管理人を置きまして、海水浴に對する放送でございます。きょう風が強いから注意してくれ。そういう放送、それからなお、けがをした場合の応急処置、その他周辺の清掃を含めまして休憩所の管理人として夏の間雇用しております。

それから、清掃人夫賃金でございますが、昨年の場合、夏の海水浴シーズンにおきましては延べにいたしまして七百六十五名をこの期間中雇い上げをしたわけでございます。

それからなお、季節的にはここに資料がございませんけれども、夏以外としまして延べ四百二十数名を採用して清掃にあたっております。

次に、委託料の関係でございますが、花卉植栽委託料といたしましては、元公社で保有しておりました鳥久の跡地に花畑として造成を委託したわけでございます。植込み面積が四、〇四五平米の面積に花を植えたわけでございます。ポピーとか、パンジー、デージー、菜の花、キンセンカ、こういう花を植えて観光客に観賞に供したわけでございます。

なお、花がほしいという希望が多かったために、途中から花刈り園的にやりまして非常にたくさんのお客が入ったわけでございますが、これは三月下旬から五月の下旬にかけて約五千人程度のお客が入りまして、それぞれ好みの花を持って帰るといふようなことで好評を得たわけでございます。

その他、西岬の花井組合に二団地花畑として造成お願いしたわけでございます。主として、菜の花をフラワーラインの路肩、区の共有地に植栽をお願いしたわけでございます。

次に、工事請負費の関係でございますが、監視塔の新設取りこわしの関係でございますけれども、木造の監視塔につきましては夏の始まる前に新設という形で組み立てをしまして設置しまして、夏が終わった場合、保管するという関係で取りこわし工事請負費というところでございます。



それから、四十七年度監視塔の新設につきましては、那古の海岸に一棟、波左間、香に一基新設をいたしましたわけでございます。

次に、十九節の負担金補助及び交付金の関係でございますけれども、観光まつりにつきましては館山市と商工会議所、観光協会、商店街連合会この四者が実行委員会をつくりまして、行事内容を検討されまして実施しているわけでございます。

四十七年度におきましては、やはり火花大会を主体といたしまして、みこしまつりとか、相模大会とか、あるいは長須賀のちゅうちんまつり等多彩な行事を実施したわけでございます。

それから、観光宣伝費補助金の関係につきましては、これはキャラバン隊をまず実施したわけでございます。昨年度は東北方面を主体におきまして、速くは仙台を行なつたわけでございますが、五県にわたりまして各旅行業者の案内所を訪問いたしました。観光宣伝をいたしたわけでございます。

なお、一般大衆を対象に宇都宮あるいは郡山、仙台等におきまして駅前広場等を利用して、根つきの花を持参しまして宣伝並びにそれを配布した。こういうことでございます。

その他、ポスターを作成いたしましたして、全国の主要駅に掲示する。あるいは観光パンフレット等を作成いたしましたしてキャラバンの場合、あるいは東京の主要駅、東京駅、錦糸町駅、両国駅こういうところに設置しまして配布をいたしておるわけでございます。

その他、いろいろありますけれども、ただいま申し上げましたように、観光宣伝はきわめて重要な事業でございますので、今後ともこれらにつきまして十分創意くふうをいたしまして、観光宣伝につとめたい。このように考えております。

なお、一季型観光から四季型観光をめざせというお話してございますけれども、この点につきましてははもとでもでございます。また、俗に、点から線、線から面、こういうことがいわれておりますが、当然ながら四季型観光をめざして努力をしてまいりたい。このように考えております。

〇 一三番（五十嵐 昇君） ただいまの御説明で実態が非常にわかつたわけでございますけれども、ともすると、ただいまの説明では夏季を中心としたいろいろの賃金体制にいたしましたも、いろいろ夏を中心としておるといふような感を持つものでございます。そこで、海岸の清掃等におきましても、ただ夏のみを中心としないで、やはり冬から春へかけて荒れてまいりますと、館山の海岸は非常に木の残物であるとか、あるいはビニールの廃棄物であるとか、そういうものが海岸に打ち寄せられまして、館山のイメージを非常にわるくする。海水浴あるいは海岸のイメージをわるくするといふような点もございしますので、一そうこの点について御留意をいただきたい。

なお、委託料の花弁植栽事業でございますけれども、ただいまの説明では鳥久の跡地であるとか、あるいは西岬の花組合への補助をして花を植えていただく。あるいはその花をいわゆる観光客に見せるといふことの御説明があったわけですが、私たちにいたしましたも、鳥久の跡地にどの程度の花卉の植栽が行なわれておるか。それを全然館山において灯台もと暗しで知らなかったといふようなことでございます。

したがって、もう少しわれわれにいたしまして、そういう面につきまして勉強しなければならぬ。こう考えるのでござ



いますが、そういう館山の花の名所といたしまして、もう少し宣伝をしたらどうか。こういうふうに考えるものでございます。

それからなお、工事請負費といたしまして、監視塔の建設、取りこわしということは、木造であるから取りこわしてまた夏になったらつくるんだということになりますと、むだな費用を毎年繰り返しておるといふことにもなりかねないと存じますので、この面につきましては、木造から鉄製というふうなことに切りかえしていくべきであろうと、こんなふうにも考えるものでございます。

なお、いろいろ監視塔などにつきましても、北条、館山のみを中心としなくて那古あるいは波左間等にもつくられているということでございます、たいへんけっこうなことでございます。船形にも、また西岬方面のもう少し先のほうにもこういった施設をつくって、そうしていろいろ海難事故に備えていくことも私は大事であろうかと存ずるのでございます。

なお、負担金及び交付金の関係でございますけれども、負担金及び交付金の内容はわかったわけでございますが、ここでお話を聞いておりますと、ともすると、夏季における一季の型の観光宣伝というふうになってはいないか。

たとえば、キャラバン隊の派遣等にいたしましたも、やはり夏を見込んでこれは夏が中心になるのはあたりまえでございますけれども、冬期、春期また秋の季節というふうにして、適切なパンフレットなりあるいはポスターなりを配布いたしまして、館山の四季型観光というものを実際に価値あらしめるといふことで一その御努力をお願いしたい。

東北地方の宣伝等も、もちろん大事ではございますけれども、

全国的にポスター、パンフレットというようなものを配布いたしまして、館山の観光についての宣伝を力強く進めていただきたい。

なお、先ほど申し上げました、いわゆる国体における花いっぱい運動をさらにこれを継続いたしまして、館山に行くと花のおいにうずまわいい気持ちで帰ってくるんだというふうなことで、花の館山ということで一その御努力をお願いしたい。

以上、終ります。

○議長（吉田勇治郎君） 暫時休憩いたしたいと思ひます。

午後二時二十分

休 憩

午後三時

再 開

○議長（吉田勇治郎君） 休憩前に引き続きまして会議を開きます。○一八番（安西益男君） 二点ほど伺ひします。

最初の一点は、五五ページ二十一節貸付金これは奨学資金の貸付金でございますが、たいへん好評を得てというふうに聞いております。逐次この対象の貸し付けがふえているというふうなことも聞いておるわけですが、この制度についてだいぶ状況もかわつておりますし、当初の貸し付け金額でいいかどうか。当初のきめられた金額をもう少し考えないでいいかということですが。

それと、これは返済がすぐ卒業と同時にというふうになっておりますが、半年ぐらいの猶予期間を置いてそれから返済をというところが今後の問題としてどうかというふうなことであります。

いま一点は、九二ページ学用品支給という問題で特にランドセルが昨今非常に実施について廃止の方向がどうかということが出て問題になっておりましたが、この点につきまして、私も廃止の時期がどうかということとは、今なおまだちょっと疑問点というふ



うに感じておるわけです。

これは当初、教育委員会また市としても、その廃止についてはずいぶん苦慮されたという面があるわけでございます。察するわけでございますが、この実施にあたって、ご存じのように四十六年の十二月定例会には学用品特にランドセルを中心にした配布については当初反対の意見が出されておったわけです。そういった観点で、議事録を讀んでいただければ、こういう意見というのがはっきりするわけでございますが、そういう空気の中で直接該当の父兄の人たちから多くのアンケートによりまして大多数が大歓迎である。ぜひという強い要望があるという観点から四十七年度は実施に踏み切った。その際にとくと私は実行力をもってやっていたきたいというふうに特に念を押しておったわけでございますが、四十八年度になりました、いろいろと教育長さんからはその理由についてお述べになっておりますけれども、前教育長に対しては、このランドセルを主体とした学用品の支給に相当意見が寄せられておったわけです。

支給は他市ではやっていない。やはりその費用を他に回したかどうかという意見もなされておりました。そういうことで若干これを踏み切った時点において父兄の人たちはある程度納得しておったかという面、それからもう少し研究の余地がなかったのだろうかという点についていろいろ聞いて見ますと、現在の状況になってきますけれども、その時期が少し早かったのではないかという面と、また同じ問題が実施中に相当反対があった。この実施が廃止された時点でまた反対になるということになりますと非常に市としても苦慮されたと思いますけれども、ひとつ実

施にあたっては強い住民本位というもの。あるいは議会の意見も尊重するという面もわかりますけれども、あくまでも父兄の大多数の人が賛成であるという制度については、若干時期がどうかという反省の余地がなかったのだろうかという点がおありになればその点もお伺いし、もう少し研究が必要ではなかったかという点等があれば、その点等もお聞かせ願いたいと思います。

○市長（本間 謙君） 安西議員さんの御質問の奨学資金の増額というふうな御希望のようでございますが、あの制度は四十四年から発足しまして高校が三千円、大学が八千円いずれも毎月、当時よそでは二千円ぐらいだったんです。大学は七千円ぐらいだったと思いますが、それでは私は少ないと思ひまして、高校三千円、大学八千円、現在九十三名にお貸ししておるわけでございますがその資金は大体篤志家による寄付金によってやっておりますが、市の予算は現在のところは使っておらないわけでございますが、現在の物価高からしまして、やはり私は本年度あたりからはある程度の増額をしなければいけないと考へておりまして、これを検討をしてみたいと存じます。

それから、ランドセルのことについては、議員の方々から親子断絶のもとをこしらえるなんて、だいぶこの席でやられたこともありますけれども、（笑声）それは別としまして、私は別に金がかかるからこれを廃止しようというような意見は持っておらなかったんですが、高木教育長が先生方や父兄なんかと相談した結果、やらないことにしたから、私もぐあいがわるいなと実は、本当は考へたんです。考へたんですけれども、教育長のほうが話ができたというから、それはするように教育上それでいいとすれば、私



は教育上のそういうことはわかりませんから、そういうことであったんですが、その後の状況やなんかを間接に伺いますと、ショルダーバックというんですか、そんなものを持ってきたりしてあるそうですから、これは教育長の意見を聞きませんけれども、今後そういうショルダーバックみたいなものをまた支給したらどうかと、私はこれは別に教育上のことでなく、ただ父兄の負担軽減ということが一つのねらいですから、ランドセルを廃止されたため、ショルダーバックを実際持ってきておるとすれば、やはりそれも考えなくちゃいけないじゃないかと今考えておりますが、あとで教育長や教育関係者にいろいろお尋ねしていこうと思っておりますけれども、金があるから廃止したということではないわけでございますので、その点御了承いただきたいと思えます。

○一八番（安西益男君） 教育長さんが学校関係とかいろいろそういったお話しのようにありましたけれども、当初はこのことについて教育長さんも、たいへん父兄も喜んだということをおっしゃっておったわけです。

そういうことで、切りかえについてはその背景として議会の空気がということも多分にあったということも感じられるわけでございますが、どうか、実情に合わせた一つのあり方というものを研究されて、また最もいい方法にもっていったいただきたいということをお願いいたします、以上で終わります。

○二三番（菊井敏博君） 各科目の中にある審議会について関連してお聞きいたします。

八三ページの都市計画審議会、七八ページ観光事業審議会、七四ページ水産振興審議会、四〇ページ防災会議等各種審議会が非

常に館山市の中に多くある。この数が大体どのぐらいかということ、その中で特に重要そうな都市計画審議会においては予算三万円に対して不用額が二万五千五百円、観光事業審議会において予算三万九千円のうち不用額二万七千円、水産振興審議会二万四千円のうち一万六千五百円、防災会議委員会においては八万六千円の予算に対して六万二千円というものが不用額、大多数のものが不用額として現在残っておるわけですが、実際に審議会というものが必要なのか、必要じゃないのか。この審議会について整理の必要があるのか、ないのかということを改めてお聞きしたい。

なお、重要議案の中には館山市の常任委員会の中で十二分に検討されるべきもので、このようなクッション的な審議会が非常にあるということに疑問を持つものでありますので、その点について、ひとつ合わせてお聞きしたいと思えます。

○人事課長（小沢正治君） 審議会の関係でございますけれども、現在、館山市附属機関設備条例に基づく審議会がこの表に出ております。十九ございます。これらのほかにこれに準ずるようなものも若干あるわけでございますが、これは設置の際には一応議会の議決を経まして、そのつど必要性を認められて設置されたものであるわけでございます。

しかしながら、その後の具体的な活動状況あるいはまた意欲的な運営、その他の関係につきましては時代の推移に伴って検討されてしかるべきという点も生じてまいろうかと存じます。

そういうよりな観点から、将来必要に応じては類似的な関係を持つものについては整理統合というよりな意味合いから、整理されてもいいというよりな情勢が生じますれば、そのような処置を



取っていくということも考えられると思います。

現在の段階ではまだ具体的なそういうような情勢には至っていないと考えられます。

〇土木課長（飯田治男君）

都市計画審議会と申しますのは、館山市都市計画審議会条例に基づいて四十五年九月の条例第三十七号で設置いたしました。都市計画法が改正されて、今まで県の都市計画審議会では建設大臣の諮問機関でございましたが、一応都市計画につきましては諮問され、建設大臣に答申いたしました決定されたものが、新しい法では市長の定めるもの、それから県知事が定めるもの、それから国が定めるものというふうな形で分けられましたために、市で決定すべきものは市の都市計画審議会に諮問いたしました。市長が決定することになりましたので、審議会も一応現在の不用額が出ましたのは用途地域の変更がございます。四十七年度で計画いたしましたのが、四十七年度中にはまとまりませんでしたので、四十八年度で都市計画審議会を開きまして皆さまで審議会で審議をしていただきまして現在決定する段取りになっております。

〇二三番（菊井敏博君）

まだほかに観光審議会とか、水産振興審議会とか、防災会議審議会とかほとんどの予算が余っております。実際は有名無実でなんか場合のクッション的なものであって、実際に要するに常任委員会の中で検討できるんじゃないか。実際にやらないものを無理に各科目に審議会をずらりと並べてかっこいいかもわからないけれども、いらないものはやめべきだと思う。

各議員の中にもみんな三つ、四つ持っていますけれども、年間

一回もやってない審議会がいっぱいある。こういうふうな何かのときにはこの審議会を利用するというふうなものを廃止して、各常任委員会の中において検討すべきものだと思うんですが、この点に対してどのように考えますか。助役さんでも、市長さんでもお聞かせ願いたいと思います。

〇市長（本間 譲君）

菊井議員さんの御質問は、私どもも考えなくちゃならぬことでございますが、やはり必要があってそういう委員会をつくってあるんですから、われわれとしてはその事案に対してはなるべくかけていくということであればいいわけですが、今まではあるいはそういう点に欠けてある面もあったじゃないかと思えますけれども、きょうはみんな課長もいますから、それぞれの所管である委員会へかけべきものはかける。

市長が病気でいるとかなんとかいうときは、助役でも、課長でも招集者になっていろいろ皆さん方の御意見を聞く、こういうことに今後の姿勢といいますか、それをその委員会を生かしていくことを考えてまいりたいと存じます。

〇二三番（菊井敏博君）

市長さん、そういうふうにいわれて今後これを活用して必要性を認めてもらうのはけっこうですが、実際こういう重要な審議会ですから、ほとんど八〇%以上も不用額として余るということは、毎年どうも決算書を見る中において納得できないものがあるわけです。

今後、このようなものを十分生かして館山市のために審議していただきたいということを要望いたしまして終ります。

〇二八番（田中禄郎君）

全般にわたっておりますので、ページ数は申し上げますが、館山市の所有しております自動車の台数が



おわかりでございましょうか。各課に自動車あると思いますが、その自動車の台数、市の所有の台数でございます。

○財政課長（長谷川広治君） 四十七年度の終了時点でございます、乗用車が六台、貨物乗用自動車これはライトバンを含めたものでございます。三十三台。それから特殊自動車が七台、マイク Robbins が二台、消防団関係の自動車が二十五台、以上でございす。

○二八番（田中禄郎君） そういたしますと、百台以上の自動車を館山市では保有して動かしていることになるわけでございすが、対物、対人全部入っておりますか、入っておりますか。それをお知らせ願いたいと思います。

○財政課長（長谷川広治君） 全部入っております。

○二八番（田中禄郎君） 百台以上の車を動かしていますと、事故がないということは私はいえないと思います。もらい事故はもちろんのこと、対物、対人には入っておりますも、保険会社に金額を請求する場合はおそらく一月乃至は一月半たないと金が入ってこないという現状であります。たとえば、ここが事故を起こした場合、見舞いに行くとか、被害者をすぐ病院に収容するとか、こういう場合は先立つものは金であるかと私はこう思いますが、その金はどういうふうに捻出しておいでになりますか。それをひとつお伺いしたいと思います。

○人事課長（小沢正治君） すべて、そういうことではございせんが、私どものほうで関係いたします実例について申し上げますと、そういう場合の損害賠償の額が結局長の権限でございせん関係で、賠償額の示談確定で議会の議決を経て歳出予算が計上さ

れるまでの間、どうしてもたてかえ払いということを取りませんと、円滑な示談が成立しないこととなりますので、少額のものについては関係職員のたてかえ払いということになりますわけですが、額がやはりどうしても大きくなりますと、どうしても市の歳計現金等でたてかえるわけにまいりません関係で、職員の互助会の預金を利用させていただいておるわけでございます。

○二八番（田中禄郎君） たいへん御親切な御答弁でございましてたとえは職員の互助会から出すとか、個人たてかえとかいうことも申されましたが、館山市といたしましては、これは伺いますが何かの科目で予算にのせるわけにいかないわけでございしょうか。

私のお聞きしたのは、ある程度の予備費といいますが、災害費といいますが、こういうものを組んでおいてそのつどやはり出していただくほうが示談にも非常に私は効果的であるというふうに考えますが、これは予算の編成の年度も近づいておりますし、もしできましたら、これを幾分でも組んでいただくということにしたほうがいいじゃないか。

不用額として千四百三十四万もの額が不用額として出ておるわけでございますから、当然、災害のときの不用額は余れば余ったに越したことはないと思いますが、これについて項目をふやしてこの項目を新年度に計上なさるそのつもりがございすか、ございせんか。それをお伺いしたいと思います。

○市長（本間 譲君） 田中さんの御質問非常に當を得たことと存じますが、これは予算編成上において、そういう災害費ですか、そういうものを組むことができるとすれば、新年度にたとえ五



百万でも、幾らでも組みたいと考えております。

〇二八番（田中禄郎君）　ただいまの市長さんの御親切な御答弁でよくわかりました。できればなくて、なるべくそういう方向にお願い申し上げまして私の質問を終わります。

## 動議

〇二四番（西村真次君）　この際、議会運営協議会を代表いたしまして動議を提出いたします。

ただいま議題となっております認定第一号乃至第七号昭和四十七年度一般会計並びに特別会計決算に対する質疑につきましてはなお御発言もあろうかと存じますが、ひとまずこのへんで質疑を打ち切り、さらに詳細に内容を検討するため、決算審査特別委員会を設置してこれに一括付託し、慎重に審査をお願いいたしたいと思います。

なお、その委員の数は十名とし、選任の方法は議長、監査委員を除いて選考し、議長の指名によりたいと思ひます。

満場の御賛同をたまわりたくお願いいたします。

（「議長、議事進行について」と呼ぶ者あり）

## 決算審査特別委員会の設置委員の選任付託

〇議長（吉田勇治郎君）　ただいまの二四番議員君の動議を議題といたします。

本動議は、認定第一号乃至第七号についての質疑を打ち切り、さらに慎重審査の必要上、決算審査特別委員会を設置し、これに一括付託する。

その委員の数は十名、選任の方法は議長及び監査委員を除いて選考し、議長の指名によるということでございます。

おはかりいたします。本動議のとおり決することに御異議ございませんか。

（「異議あり。議事進行について」と呼ぶ者あり）

〇議長（吉田勇治郎君）　御異議がございますので、本動議を起立によりおはかりいたします。

（賛成者起立）

〇議長（吉田勇治郎君）　起立多数。よって本動議は可決されました。

（「議事進行の動議です。優先すると思うんです」と呼ぶ者あり）

（「議事進行」と呼ぶ者あり）

〇議長（吉田勇治郎君）　これより決算審査特別委員会の委員を指名いたします。

三番議員	流山源次郎君	五番議員	近藤　好雄君
七番議員	渡辺　昭夫君	一三番議員	五十嵐　昇君
一五番議員	和田　一郎君	一六番議員	辻井　謹爾君
一八番議員	安西　益男君	二〇番議員	君塚　喜三君
二五番議員	安沢　徳順君	二六番議員	飯田　義男君

以上十名、決算審査特別委員会の委員に指名いたします。

これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

〇議長（吉田勇治郎君）　御異議なしと認めます。よって、決しま



した。

重ねておはかりいたします。ただいま決定されました決算審査特別委員会に認定第一号乃至認定第七号昭和四十七年度一般会計及び特別会計決算を一括して付議し、後日の本会議までに審査を了し、その経過並びに結果について報告を求めるようにいたします。

これに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よって、決しました。

ただいま選任されました決算委員の方々は、のちほどこの議場において正副委員長の互選を行いますので、御了承願います。

## 休 会

○議長(吉田勇治郎君) おはかりいたします。

明十二月十二日から十六日までの五日間、委員会審査のため休会いたしたいと思います。これに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よって、十二月十二日から十六日までの五日間休会することに決定いたしました。

## 延 会 午後三時三十二分延会

○議長(吉田勇治郎君) 重ねておはかりいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

次会は、十二月十七日午前十時開会といたします。その議事は認定第一号乃至第七号昭和四十七年度各会計決算にかかわる決算審査特別委員会委員長の審査の経過並びに結果の報告、討論、採決及び追加議案の審議といたします。

○本日の会議に付した事件

一、認定第一号乃至認定第七号

一、決算審査特別委員会の設置

一、休会



